



クリスチャン時代における聖所

目次

神の小羊	5
わたしたちの大祭司	10
「あなたを知ることあります」	15
確信をもって聖所にはいる	20
新しい契約の聖所とその庭	25
一人びとりに責任がある	31
神は日を定められた	36
調査審判	41
今日のための教訓	47
「自分の罪をぬぐい去っていただくために」	53
贖罪の日の本体	59
本体と型の対比	64
神の家族の再一致	69
千年期の間およびその後の聖徒たち	74

セブンスデーアドベンチスト
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.87, No.3

編集&発行：
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

FAX : (0494) 26-5059

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト : Illustrations:
Getty Images on pp.30;
MapResources pp. 4, 51.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

今期(2011年10月-12月)のために用意された教科は、「クリスチャン時代における聖所」で、贖いの計画と聖所についての研究シリーズの最終となります。

わたしたちは、ご自分の民の救い主であられるイエス・キリストについて世の始めから終りまでを学んできました。小羊、犠牲(血)、そして聖所の奉仕の型における意味について学んできました。また悔い改めた罪人が日ごとの贖罪において許され、彼らの罪が贖罪の日に聖所から取り除かれた後に、「清い」とみなされることを学びました。

今期は、これらの象徴の本体の意味について学んでいきます。神の小羊であられるキリストについて学び、キリストの犠牲とこのお方の血の功績を学んでいきます。そして天の聖所におけるキリストの奉仕について学びます。

ですから、「わたしたちが告白する信仰の使者また大祭司なるイエスを、思いみ」、「前におかれている望みを捕え」なさい。「この望みは、わたしたちにとって、いわば、たましいを安全にし不動にする錨であり、かつ「幕の内」にはいり行かせるものである」(ヘブル 3:1; 6:18, 19)。

「兄弟たちよ。こういうわけで、わたしたちはイエスの血によって、はばかりことなく〔天の聖所の至〕聖所にはいることができ、彼の肉体なる幕をとおり、わたしたちのために開いて下さった新しい生きた道をとおって、はいって行くことができるのであり、さらに、神の家を治める大いなる祭司があるのだから、心はすすがれて良心のとがめを去り、からだは清い水で洗われ、まごころをもって信仰の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか」(ヘブル 10:19-22)。

また、わたしたちは天の聖所で神を礼拝するように招かれていることを心に留めましょう(黙示録 11:1)、そこへわたしたちはキリストの血の徳のうちにはばかりことなく入るのです(ヘブル 10:19); そうです、天の聖所がわたしたちの理解力に対して開かれたときに、信仰によって神の契約の箱とその内容を見たわたしたちは(黙示録 11:19)、聖所の測り、すなわち神の聖なる律法によって量られつつあるのです。

ダニエル 7:9, 10; 8:14; 黙示録 14:6, 7; そして使徒行伝 3:19, 20 に関連して、天の聖所の開けたことに、世界中の安息日学校の聖徒たちの注意を集めます。

これらの教訓がまもなく来られるわたしたちの主イエス・キリストの来臨にわたしたちの民を備える助けとなりますように!

- 世界総会安息日学校支部 -

第一安息日献金

オーストラリアのメルボルンの 第二の教会のために

世界中の兄弟姉妹、また安息日学校生徒の皆様へご挨拶申し上げます。

3,800万人の人口をもつメルボルンはオーストラリアの第二の都市です。ビクトリア州に位置し、この大国の南東の海岸線にあるポート・フィリップとして知られる天然の大きな港に囲まれています。メルボルンは多様性に富んだ多文化の都市です。233国からの住民が住み、180を超える言語および方言が話され、116もの宗教的な信仰にしがっています。

メルボルンは、海洋性の温暖な気候で、その変わりやすい天気で有名です。「一日のうちに四つの季節」という言葉は有名な文化の一部であり、この都市を訪れる多くの人々が認めています。

この大都市におけるわたしたちの小さな教会は、1970年に建築され、40年近くの間、地域社会に貢献してきました。主はわたしたちを祝福して下さり、信徒の数は大いに増し加わりました。いま、わたしたちの教会は安息日ごとに集まる礼拝者の数が増えて収容しきれないほど狭くなっています。

オーストラリアのこの地域に、新しい灯台が必要です。ですから、メルボルンに第二の教会を組織し、これを通してこの成長している都市においてより広い地域に伝えることが決定されました。わたしたちには大工やれんが職人、配管工、塗装工、電気工を含む職人たちが勢ぞろいしており、主のための新しい教会を建設したいと熱望しています。そして、これはまた皆さんも手伝うことができます。

もし皆さんがわたしたちの美しいこの街に住んでいたら、実際的に援助の手を貸すことができることでしょう。しかし、皆さんは遠方の国々に住んでおられるので、その第一安息日献金をオーストラリアのメルボルンに送って下さることによって助けることができます。その献金を大いに感謝します。この惜しみない献金によって、わたしたちは主が宿り、またわたしたちがこのお方を礼拝できる家を建築するための木材やれんが、パイプやペンキ、セメントやモルタルを買います。

皆さんの多大な惜しみない心を感謝します。主がたしかに皆さんを豊かに祝福して下さいますように。



-メルボルンの皆さんの兄弟姉妹-

神の小羊

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ 1:29)

「犠牲の小羊は、われわれの救いの唯一の希望である「神の小羊」をあらわしている。」(人類のあけぼの上巻 318)

推奨文献：各時代の希望上巻 152-164

日曜日

9月25日

1. 「見よ、あなたの王は……来る」

- a. ゼカリヤはキリストの誕生の 500 年前に、キリストについて、何を預言しましたか (ゼカリヤ 9:9)。
- b. この預言の成就を述べなさい (マタイ 21:1-11; ルカ 19:37, 38)。

「キリストが小馬にお乗りになるやいなや、勝利の叫びが大気をふるわせた。群衆は、キリストをメシヤ、彼らの王として歓呼した。イエスはいま、以前には決しておゆるしにならなかった敬意をお受けになったので、弟子たちはこのことを、イエスが王位につかれるのを見ることによって自分たちのうれしい望みが実現される証拠として受けとった。」(各時代の希望下巻 2,3)

「救い主のまわりには、罪人に対する主の愛の働きによる輝かしい戦勝記念となる人たちがいた。……

多くのパリサイ人たちが、この光景を見て、ねたみと敵意に燃え、民衆の人気の流れを変えようとした。……彼らは、こんな騒がしいデモンストレーションは不法であり、当局から許可されないだろうと断言した。しかし彼らは、「あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう」というイエスの答えに沈黙させられた(ルカ 19:40)。この勝利の光景は、神ご自身がお定めになったものであった。それは預言者によって予告されていて、人間には神の目的をそらす力はなかった。もし人間が神のご計画を実行しなかったら、神はいのちのない石に声を与え、石が賛美の叫びをもってみ子を歓呼したであろう。沈黙させられたパリサイ人たちが汚きさかると、幾百の人々の声がゼカリヤのことばをとりあげた。〔ゼカリヤ書 9:9 引用〕(同上 7,8)

2. 約束された救世者、キリスト

a. ユダヤ人はどのような救出を期待していましたか(使徒行伝 1:6 下句)。

「群衆は、彼らの解放の時が近づいたことを確信した。彼らは、ローマの軍隊がエルサレムから追われ、イスラエルがもう一度独立国家になるときのことを胸にえがいた。」(各時代の希望下巻 3)

「もしイエスが、自分たちの見たような多くのふしぎなわざをなさることができるのだったら、なぜご自分の民の全部に健康と力と富とを与え、われわれを压制者から解放し、権力と名誉の座に高めてくださることができないのかと、彼らの不満な心に疑問が起るのだった。」(各時代の希望中巻 131)

b. キリストはイスラエルをローマの支配下にあるくびきから救うために来られたのですか、あるいは罪の奴隷からですか(イザヤ 61:1; ヨハネ 8:32-36)。

「キリストが人々の中で個人的に伝道された期間は、暗黒の王国の勢力が最も活動していた時であった。各時代にわたってサタンと悪天使たちは、人間の肉体と精神とを支配して罪と苦難とを生じさせようと努力してきた。そして彼はそうしたすべての悲惨な状態を神のせいにした。イエスは神のご品性を人々にお示しになっていた。彼はサタンの力をうち破り、そのとりこを解放しておられた。」(各時代の希望上巻 321)

c. 幕がわたしたちの目から取り除かれ(コリント第二 3:16, 17)、わたしたちが真理をつかむとき(ヨハネ 8:32)、それはわたしたちに正しい種類の救出を求めるように命じます。キリストはわたしたちを律法への従順から自由になさいますか、あるいは不従順からですか。どちらが罪ですか(詩篇 40:7, 8; ローマ 8:6-13)。

「イエスは律法について、『廃するためではなく、成就するためにきた』と仰せになった。イエスはここで、『成就する』ということばを、「正しいことを成就する」のが自分の意向であるとバプテスマのヨハネに告げられた時と同じ意味にお用いになった。すなわち、律法の要求を満たす、神の意志への完全な一致の模範を与える、ということである。

イエスの使命は『教(律法)を大いなるものとし、かつ光栄あるものとする』ことであつた(イザヤ書 42:21)。イエスは、律法の霊的な性質を示し、その遠大な原則を教え、それが永遠の義務であることを明らかにされるのであつた。』(祝福の山 61)

d. わたしたちはキリストのうちにある真理をどのように要約することができますか(詩篇 119:142; ヨハネ 17:17)。

3. 失望

- a. 人々はキリストが王として冠をかぶせられる代わりに、何を見ましたか（ルカ 19:45, 46）。キリストは宮の清めによって、わたしたちに何を教えたいと望まれましたか（マラキ 3:3）。

「けがれた商売のそうぞうしきにつつまれていたエルサレムの宮の庭は、肉欲やきよくない思いがはいるこんでけがれている心の宮をそのままあらわしていた。宮を世俗の売人、買う人からきよめることによって、イエスは、罪のけがれ、すなわち魂を墮落させる世俗的な望み、利己的な欲望、悪習慣などから心をきよめられるご自分の使命を宣言された。」（各時代の希望上巻 186）

- b. 過越の小羊に関連してユダヤ人はどの預言を見過ぎていましたか（イザヤ 53:2-7）。

「ユダヤ人は血をささげること慣れてしまって、動物の血をこのように流さねばならないのは罪のためであるという事実をほとんど忘れていた。彼らは、それが神のいと子の血を予表するものであって、それは世の人々のいのちのために流されるのだということ、人はいけにえをささげることによって、十字架につけられた救い主に心を向けるのであるということを見とめていなかった。」（各時代の希望下巻 28,29）

- c. ユダヤ人は約束された救出についての預言を誤解していたために（イザヤ 61:1）、過越の小羊の意味を見極めることが可能でしたか。小羊がキリストを表していることを悟ることができなかつたために、彼らは何と言いましたか（ヨハネ 6:52）。

「ユダヤ人は、エルサレムで、ちょうど過越節を祝おうとしていた。それは死の天使が、エジプトの家々を撃った時、イスラエルが救済された夜を記念するものであった。神は、彼らが過越の小羊を神の小羊イエスとして見、この象徴を通して、世の人々のいのちのためにご自分をお与えになったキリストを受け入れるように望まれた。しかしユダヤ人は、象徴だけを重視して、その意義を見失っていた。彼らは主のからだをわきまえなかつた。過越節の儀式に象徴されているのと同じ真理が、キリストのみことばのうちに教えられた。しかしそれもまたみとめられなかつた。」（各時代の希望中巻 137）

4. くじかれた望み、精神的な混乱

- a. キリストがご自分の肉を食べ、ご自分の血を飲むことによって永遠の命をもつと言われたとき、何を意味しておられましたか(ヨハネ 6:51)。

「イエスの肉を食べ、その血を飲むということは、キリストを自分自身の救い主として受け入れ、キリストがわれわれの罪をゆるしてくださることと、彼のうちにあるときわれわれが完全であるということとを信じることである。キリストの愛を見つめ、これについて瞑想し、これを飲むことによって、われわれはキリストの性質にあずかる者となるのである。肉体にとって食物がなくてはならないように、魂にとって、キリストはなくてはならないものである。食物は、われわれがそれを食べて、それがわれわれの生命の一部となるのでなければ、何の役にもたたない。同様にキリストは、もしわれわれが彼を自分自身の救い主として知るのでなければ、われわれにとって何の価値もないのである。理論的な知識はわれわれに何の益も与えない。キリストのいのちがわれわれのいのちとなるためには、キリストを食べ、キリストを心に受け入れねばならない。キリストの愛、キリストの恵みを同化しなければならない。(各時代の希望中巻 138)

- b. 命のパンに言及されたキリストの言葉によってつまずいた人々の落とし穴を、どのように避けるべきですか(ヨハネ 6:52-60)。

「真の信仰を持っていた人々にとっては明白であったことが、霊的な識別力に欠けている人々にとってはつまずきの石となった。〔キリストの弟子の多く〕は、キリストが彼らに生来の心が理解することも受け入れることもできない言葉を語られたのでつまずき、これ以上イエスと歩むことを拒んだ。

信徒たちの中で、世を愛し、自分の愛情が真理に従わない自分たちの親戚や友人たちにすっかり奪われているために、思いの中で混乱し、またサタン誘惑を通して、主の側につく代わりにサタンの側に立っている人がいないであろうか。……〔ヨハネ 6:54, 55 引用〕。これらの言葉は弟子たちのうちのある者がつまずいた言葉であったが、イエスはつまずきの石となる物をすべて取り除き、彼らに言われた、『このことがあなたがたのつまずきになるのか。それでは、もし人の子が前にいた所に上るのを見たら、どうなるのか。人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である』(ヨハネ 6:61-63)。霊的な機能をよみがえらせるのは、心のうちに宿る神のみ言葉である。」(ユース・インストラクター 1895年1月10日)

- c. キリストがピラトの審判席の前に立っておられたとき、群衆からどのような叫びが聞かれましたか(マタイ 27:22-25)。

5. 世のための希望

- a. 世の罪のためにキリストが死のうとしておられた直前、このお方はどの儀式を制定なさいましたか。また、それは何を記念していましたか（コリント第一 11:23-26; ペテロ第一 3:18）。

「神のきずなき小羊であられるキリストは、罪祭としてご自分をささげようとしておられた。こうしてキリストは、四千年の間キリストの死をさし示してきた型と儀式的の制度に終止符をうたれるのであった。弟子たちと過越の食事をされたとき、主は、過越節の代りに、主の大いなる犠牲の記念となる式をお定めになった。……

過越節は、イスラエルがエジプトの奴隷状態から救済された記念として定められた。……聖さん式は、キリストの死の結果達成された大いなる救済を記念するために与えられたのであった。」（各時代の希望下巻 130,131）

- b. カルバリーの十字架上での神の小羊の犠牲によって、世にどの扉が開かれましたか（ローマ 11:11, 15; テモテ第二 1:9, 10; ペテロ第一 1:18-20）。

「身をひくくして人性をとることによって、キリストはサタンの品性と反対の品性をあらわされた。しかし主は屈辱の道をもっと低いところへくだられた。『おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた』（ピリピ 2:8）。大祭司が豪華な祭司服をぬいで、一般の祭司と同じ白い麻の衣を着て式をとり行うように、キリストはしもべのかたちをとり、みずから祭司となり、またみずからいけにえとなって、いけにえをささげられた。」（各時代の希望上巻 10）

個人的な復習問題

- ゼカリヤ 9:9 の預言はどのように成就しましたか。
- ユダヤ人が期待していたメシヤについて持っていた誤った考えを述べなさい
- 何が彼らに「彼を十字架につけよ！彼を十字架につけよ！」と叫ばせたのか、説明しなさい。
- キリストの体と血の象徴的な意味は何でしたか。
- 何の儀式がエジプトのくびきからのイスラエルの救出を記念していましたか。そして、主の晩餐はどの救出を記念していますか。

わたしたちの大祭司

「わたしたちが告白する信仰の使者また大祭司なるイエスを、思いみるべきである。」
(ヘブル 3:1)

「ご自分の昇天後、わたしたちの救い主はわたしたちの大祭司としてのご自分の働きを始められた。」(主よ、来りませ 248)

推奨文献：各時代の犬争闘下巻 147-150

日曜日

10月2日

1. 勝利!

- a. キリストが地上におけるご自分の働きを成し遂げられたとき、十字架上から何を叫ばれましたか(ヨハネ 19:30)。これらの言葉は何を意味していましたか(エペソ 2:16-18; 黙示録 12:10)。

「全天は救い主の勝利に凱歌をあげた。サタンは敗北し、彼の王国が失われたことを知った。

天使たちと他世界の住民たちにとって、『すべてが終わった』という叫びは深い意味があった。大いなるあがないの働きがなすとげられたのは、われわれのためばかりでなくまた彼らのためでもあった。彼らは、われわれと共に、キリストの勝利の結果をわかち合うのである。

キリストが死なれてはじめて、サタンの性格が天使たちや他世界の住民たちにはっきりわかった。大背信者は欺瞞の衣を着ていたので、聖者たちでさえ彼の原則を理解していなかった。彼らは、サタンの反逆の性質をはっきりわかっていなかった。……

物事を安全という永遠の基礎の上におくことが神の御目的だったので、天の会議では、サタンがその統治制度の基礎となっている原則を發揮する時間を与えるべきだということが決定された。サタンは自分の原則が神の原則よりもすぐれていると主張していた。そこでサタンの原則が天の宇宙に知れ渡るように、それを發揮させる時間が与えられた。

サタンが人類に罪を犯させたので、あがないの計画が実施された。四千年の間、キリストは人類を高めるために働かれたが、サタンは人類を墮落させ、滅ぼすために働いていた。天の宇宙はそれをすべて目に見たのであった。」(各時代の希望下巻 282-284)

2. 天と地上における和解

- a. 十字架上のキリストの死を通して天では何が起こりましたか（コロサイ 1:20）。地上における和解のためにどのような備えがなされましたか（コリント第二 5:18-21）。

「サタンは自分の仮面が引きはがされたことを知った。彼の統治は墮落していない天使たちと天の宇宙の前に公開された。彼は殺人者の正体を現わした。神のみ子の血を流すことによって、彼は天の住民の同情をまったく失ってしまった。それからのち彼の働きは制限された。どんな態度を装おうと、彼はもはや天使たちが天の宮廷から出てくるのを待ち伏せて、キリストの兄弟たちが暗黒の衣と罪のけがれを着ていると彼らに訴えることができなくなった。サタンと天の世界との間の同情という最後のつながりがたちぎられた。」（各時代の希望下巻 286,287）

- b. サタンについて、そのときどの決定が確認されましたか（ヘブル 2:14）。彼はなぜその時に滅ぼされなかったのですか。

「〔キリストの十字架上で死の時〕サタンは、その時まで滅ぼされなかった。天使たちは、その時になってもまだ、大争闘に含まれていることをみな理解しているわけではなかった。問題となっている原則をもっとはっきり示す必要があった。人のために、サタンの存在を続けさせねばならなかった。天使はもちろん人も、光の君と暗黒の君との相違を見なければならぬ。人は自分の仕えるべきものを選ばねばならない。」（同上 287）

- c. 憐れみ深く正義であられる宇宙の王は、なぜ正当にわたしたちには希望を差し出しながら、サタンにはもはや差し出さないことができるのですか（黙示録 12:9; 20:10）。

「天におけるルシファーは神の栄光という光のうちにあつて罪を犯したのである。彼には、ほかのどんな被造物に対するよりも神の愛のあらわれが与えられていた。神のご品性を理解し、神の恵みがわかっていながら、サタンは、自分自身の利己的で勝手な意思に従うことを選んだ。この選択は決定的なものであった。彼を救うために神がおできになることはもうなかった。一方、人はだまされたのであった。人の心は、サタンの詭弁によって暗くなったのだ。人は、神の愛の高さと深さを知らなかった。神の愛を知るときに、人には望みがあった。神のご品性を見ることによって、人は神のみもとにひきもどされるかもしれなかった。（同上 287,288）

3. キリストと神の統治

- a. 贖いの計画において、どの二つの原則が共に活動的に働いていますか（詩篇 85:10）。

「神の愛は、あわれみのうちにばかりでなく義のうちにもあらわされた。義は神のみ座の基礎であり、神の愛の実である。あわれみを真実と義から引き離そうとするのがサタンの意図であった。彼は神の律法の義が平和の敵であることを証明しようと努力した。しかしキリストは、神のご計画のうちにあってこの両者は離すことができないほど密接に結合しており、一方がなければ他方は存在し得ないことを示しておられる。……

サタンは、あわれみが義を滅ぼし、キリストの死が天父の律法を廃止したと宣言した。しかしもし律法を変えたり、廃止したりすることが可能であったら、キリストは死なれる必要がなかったのである。律法を廃することは、罪とがを不滅なものにし、世をサタンの支配下におくことになる。イエスが十字架上にあげられたのは、律法が不変であったからであり、律法の戒めに従うこと以外に人が救われる道はなかったからである。」（各時代の希望下巻 289）

- b. 天におけるキリストの地位を説明しなさい（ヘブル 3:1）。

「キリストをさし示していたいけにえの儀式は過ぎ去った。しかし人間の目は、世の罪のためのまことのいけにえに向けられた。地上の祭司制度はやんだ。だがわれわれは、新しい契約の奉仕者イエス……に目をそそぐ。

奉仕は地上の宮から天上の宮へ移されても、また聖所とわれらの大祭司は人間の目には見えなくても、弟子たちはそのことによって何の損失もこうむらないのであった。救い主がおられないからといって、まじわりが中断されたり、力が減少したりするようなことはないのであった。イエスは天の聖所で奉仕しておられる一方では、いまでもみたまによって地上の教会の奉仕者であられる。」（各時代の希望上巻 194）

- c. どのようにキリストはメルキゼデクに等しいわたしたちの大祭司となられたのですか一律法によってですか、誓いによってですか（ヘブル 7:12-21, 28）。
- d. いつ、どのようにアブラハム、またレビ部族でさえ、メルキゼデクに什一を払いましたか（ヘブル 7:1, 2, 9, 10）。どのように、だれを通してわたしたちの大祭司はわたしたちの什一を受け取られますか（ヘブル 7:8）。

4. わたしたちの大祭司によって祝福される

- a. 古い契約の下で、大祭司から民へどのような同情のあることが期待されていましたか。それは、なぜですか（ヘブル 5:1, 2）。
- b. 新しい契約の下で、わたしたちは自分たちの大祭司からどのような注意、助け、愛を受けますか（ヘブル 2:14-18; マタイ 28:20）。

「不可能にみえることが彼らの道をさまたげても、キリストの恩恵によって〔キリストに従う者たち〕は前進するのである。困難を嘆かないで、それを乗り越えるように命じられている。どんなことにも失望することなく、どんなことにも望みを持つのである。キリストは、ご自分の比類のない愛という黄金の鎖で、彼らを神のみ座にむすびつけられた。すべての力のみなもとから発する宇宙の最高の力を彼らに与えることが神の御目的である。彼らは、悪に抵抗する力、この世も、死も、よみも征服することのできない力、キリストが勝利されたように彼らにも勝利させる力を与えられるのである。……

こうして天来の権威を持っているおかたのことばで、キリストは、ご自分の選ばれた教会を父の腕におまかせになる。聖別された大祭司として、キリストはご自分の民のためにとりなされる。忠実な羊飼いとして、キリストはご自分の群れを大能のかげ、じょうぶで安全なかこいの中にお集めになる。」（各時代の希望下巻 170-172）

- c. どの確証がわたしたちに日常生活における慰めと安定性を与えますか（ヘブル 13:6, 8）

「イエスはいつもご自分の神性と結合したご自分の人間の優しさにおいて同じであられる。いつもわたしたちの弱さを思いやり、ご自分の神聖な奉仕の特性を、わたしたちに善をなすために用いて下さる。いつもわたしたちを一步一步励まし、導き、導いて下さる。このお方は不変である。今日のわたしたちにとってのこのお方、すなわちわたしたちの弱さを思いやることのおおきになる忠実な大祭司は、明日も、その次も永遠に同じである。このお方は導いて下さる案内者であり、指導して下さる教師であり、勧告して下さる友であり、ご自分の祝福をご自分の教会に、彼らの信仰の祈りに応えて与えて下さる贈与者である。

イエスはご自分の信じる弟子たちに、『わたしにつながっていないさい』と言われた。これは信徒の側の継続的な信仰を意味している。『わたしにつながっていないさい』。これは、キリストの指示を聞くことを意味している。わたしたちはこのお方のみ旨を行わなければならない。キリストはわたしたちをご自分と住まわせて下さる、そしてわたしたちはこのお方の住まいの恩寵を楽しみ、このお方の平安を楽しむのである。すべての人間の不和、悪い気質、いらだちは、このお方の家では止むのである。」（原稿リ-ス 21 巻 422,423）

5. まだ恩恵期間の戸が開かれている間に……

- a. ご自分の昇天以降、わたしたちの大祭司の天の聖所における主な働きは何ですか（ヘブル 7:24-26; 9:12）。

「キリスト・イエスは絶えず祭壇のところに立ち、時々刻々と世の罪のための犠牲を捧げておられるお方として表されている。このお方は人によらず主によってもうけられた真の幕屋に仕えるお方である。……イエスは、ほふられた小羊としてご自分の流された血をお捧げし、神のみ前で職務を果たしておられる。」（*セレクトド・メッセジ* 1巻 343,344）

- b. 恵みの戸がまだ開かれている間に、キリストの血の功績が、どのように効力のあるものを描写しなさい（黙示録 1:5; ヘブル 9:14; ヨハネ第一 1:9）。

「イエスは罪人のすべての罪、またすべての欠点のために捧げられた供え物を提示しておられる。」（同上 344）

「神と各々の魂との関係は、あたかも地上に神の見守りにあずかる者が他にいないかのように、また神がただその一人のために愛する御子を与えて下さったかのように、はっきりとした完全なものである。」（キリストへの道 138）

個人的な復習問題

1. 「すべてが終わった」というキリストの叫びは、天使の万軍によって、どのように理解されましたか。
2. なぜ天における和解が必要でしたか。またそれはいつ起こりましたか。
3. どのように憐れみと義が、神のご計画の中で共に進むか、説明しなさい。例を挙げなさい。
4. 天の聖所でわたしたちの大祭司としてイエスが奉仕しておられる間、どのようにこのお方は、同時にご自分の地上の教会と共にご臨在くださいますか。
5. わたしたちのために御父のみ前で職務を果たして下さる間、どのようにキリストが2000年前に流されたご自分の血（ヘブル 9:14; ヨハネ第一 1:7）を捧げておられるかを説明しなさい。

「あなたを知ることであります」

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ 17:3)

「神と神がつかわされたイエス・キリストの経験的な知識が、人を神のみかたちに変える。」(キリストを映して 117)

推奨文献：キリストの実物教訓 77-91

日曜日

10月9日

1. これが永遠の命である

a. 救いの計画の中心的な主題は何ですか (ヨハネ 17:3; ヨハネ第一 5:20)。

「キリストは、父なる神に祈られた祈りの中で、思いと魂に刻まれるべき教訓を世にお与えになった。〔ヨハネ 17:3 引用〕。これが真の教育である。これが、人にも与えるものである。」(キリストの実物教訓 90)

b. わたしたちはだれを通して父なる神を知りますか (ヨハネ 14:8-10; 10:30)。

c. キリストはだれを通してわたしたちにお教えになりますか (ヨハネ 14:26; 16:13; コリント第一 2:12, 13)。

d. どこで、御父と御子のご自身をあらわされますか (ルカ 11:28; ヨハネ 5:39)。その他、どこで神はご自分の道を表されますか (詩篇 77:13)。

「神は聖書を、全人類にとって、幼年時代、青年時代、壮年時代の教科書となり、全生涯にわたって研究すべきものとなるよう意図された。神は聖書を、ご自分の啓示として人間にお与えになった。新しい真理が明らかになるたびに、その真理の本源であられる神の品性が新たにあらわされる。聖書を研究することは、人間を創造主とのいっそう密接な関係に入れ、神のみこころをいっそう明瞭に知らせるために、神がお定めになった方法である。それは、神と人間とが交わる手段である。」(各時代の犬争闘上巻 70)

2. はっきりとした地位

- a. 御父との関係において、キリストはどの地位を占めておられますか（詩篇 110:1; ヘブル 1:3; 10:12）。
- b. 聖書の言葉で「右の手」というのは、地理的な場所を指すのではなく、権威の地位を指しているということは自明のことです（出エジプト記 15:6）。どの力がキリストに帰属しますか（ペテロ第一 3:22）。
- c. キリストは、日常生活において助けを与えながら、どのようにご自分の力を信徒にまで及ぼしていますか（エペソ 1:17-22）。

「キリストはご自分の王衣とご自分の王冠とご自分の最高指揮権において、下へ、下へ、下へと降りてこられ、へりくだりの最も深い低さにまで来られた。人間の性質を負って、このお方は人類のすべての誘惑にあわれ、わたしたちのために、すべての点において敵を打ち破られた。

これらすべてのことを、このお方は、彼らが勝利者となるための力を人にもたらすためになされたのである。『わたしは』『いっさいの権威を授けられた』とこのお方は言われる（マタイ 28:18）。そして、このお方はこれをご自分に従うすべての人にお与えになる。彼らは世にキリストの宗教には自己に打ち勝つための力があることを示すことができる。」（教会への証 9 巻 190）

「キリストを通して受ける力がなければ、わたしたちには何の力もない。しかし、キリストはすべての力を持っておられる〔マタイ 28:18-20 引用〕。

ここにわたしたちの力、わたしたちの慰めがある。わたしたちについていえば、何の力もない。しかし、このお方は『いつもあなたがたと共にいる』と仰せになり、あなたが自分の義務を遂行するのを助け、導き、慰め、聖化し、あなたを支え、あなたに他の人々の注意をキリストに引きつけるような言葉を語れるよう成功させて下さる。そして彼らの思いに望みと真理の意味を理解したいとの願いを目覚めさせ、彼らを闇から光へ、また罪の力から神へと向きを変えて下さる。」（この日を神と共に 329）

- d. 二枚の石板に記された十誡の戒めの背景にあるのは、どの権威ですか（出エジプト記 34:1; 申命記 10:4; 33:2）。

「天の聖所にある神の律法は、大いなる実体であつて、石の板に刻まれ、モーセによって五書の中に記録された戒めは、その正確な写しである。」（各時代の大争闘下巻 152）

3. 天の聖所で

- a. 天ではどこで、キリストがわたしたちの大祭司として務めを果たしておられますか（ヘブル 8:1, 2; 9:11, 24）。

「イエスが昇天して、ご自分の血によって天の聖所に入り、弟子たちにご自分の仲保による祝福を注ごうとされたとき、ユダヤ人たちは全くの暗黒の中に取り残されて、彼らの無益な犠牲と供え物を続けたのであった。型と影の奉仕は終わっていた。」（各時代の大争闘下巻 148）

- b. キリストはわたしたちのために、御父の前で何をしておられますか（ヨハネ第一-2:1, 2; マタイ 10:32, 33）。なぜこのことがわたしたちに勇気をもたらすのですか。

「仲保者イエスは、彼の血を信じる信仰によって勝利したものがみな、その罪を許され、再びエデンの家郷にもど……るように、嘆願されるのである。……キリストは、ご自分の民のために、完全で十分な許しと 義認だけでなく、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを求められるのである。」（各時代の大争闘下巻 216）

「イエスは、ひとりびとりの魂の事情をご存じである。自分は罪深い者だ、とても罪深い者だとあなたは言うだろう。あるいはそうかも知れない。しかしあなたが悪ければ悪いほど、イエスが必要なのである。主は泣いて悔い改める者を決してしりぞけられない。主は明らかに示すことができなくなることを全部だれにでもお告げになるとは限らない。主は、ふるえている魂に勇気を出しなさいと命じられる。主はゆるしと回復とを求めてみもとに来るすべての者を心よくゆるしてくださる。……」

主は、きょう香壇のそばに立って、神の助けを望む者の祈りを神のみ前にささげておられる。」（各時代の希望中巻 396,397）

「キリストは墮落した人間と神の間に入って下さり、人にこう言われる、『あなたはまだ御父の許へ行くことができる。神が人に和解し、人が神に和解することのできる計画が考案された。仲保者を通してあなたは神に近づくことができる』と。そして今このお方はあなたのためにとりなすために立っておられる。このお方はあなたのために嘆願しておられる偉大な大祭司であられる。そしてあなたはイエス・キリストを通して御父の許へ来て、あなたの事情を提示しなくてはならない。こうしてあなたは神へ近づく道を見出すことができる。そして、罪を犯したにもかかわらず、あなたの審判も希望がないわけではない。……」

失望してはならない。落胆してはならない。あなたには誘惑があるかもしれず、狡猾な敵によって悩まされるかもしれないが、それでももしあなたが自分の前に神への恐れをもっているならば、力に勝る天使たちがあなたの助けのためにつかわされて、あなたは闇の権力に対抗してあまりがあるものとなる。イエスは生きておられる。このお方は墮落した人類のための逃れの道を備えるために死なれた。そしてこのお方は今日わたしたちのためにとりなしをするために生きておられる。それはわたしたちがこのお方自身の右にまで高められるためである。」（教会への証 2 巻 591, 592）

4. 七つの教会、七つの燭台、七つの星

- a. 天の聖所の中にいるキリストを見た幻を、使徒ヨハネはどのように描写しましたか（黙示録 1:12-16, 20）。

「七つの教会の名は、クリスチャン時代における教会を象徴している。七の数字は完全を表し、これらのメッセージが時の終わりまで及んでいることを象徴している。また、用いられている象徴は、この世界歴史におけるそれぞれ異なる時代の教会の状態を表している。」（患難から栄光へ下巻 290）

- b. 七つの燭台の象徴的な意味は何ですか（黙示録 1:20）。

「キリストは金の燭台の間を歩いているように述べられている。これはキリストと教会の関係を象徴したものである。キリストは絶えずその民と交わっておられる。主は彼らの真の姿を知っておられる。彼らの状態、敬虔さ、献身を見ておられる。主は天の聖所の大祭司であり、仲保者であるが、地上にあるご自分の教会の間を歩くかたとして表されている。キリストはたゆまず目をさまし、絶えず気を配りながら、見張り番の灯が暗くなったり消えたりしないように見守っておられる。もし燭台が単に人間にゆだねられるなら、ゆらめく炎は衰えて消えてしまうであろう。しかしキリストは主の家の真の見張りであり、宮廷の真の番人である。キリストの絶えざる守りと恵みによる支えは、いのちと光の源である。」（同上 290,291）

- c. 七つの星は何を象徴していますか（黙示録 1:16（上旬）, 20）。

「キリストは右手に七つの星を持つかたとして表されている。これは、ゆだねられたことに忠実な教会は、失敗に終わることをおそれる必要がないことをわれわれに確証している。なぜなら、全能の神に守られている星は、一つでもキリストの手から奪われることはないからである。

〔黙示録 2:1 引用〕。この言葉は教会の教師たち、すなわち、神から重い責任を負わされている人々に語られている。……キリストは星を光で満たされる。また、その運行を導き、指示される。もしキリストがこれをなさらなければ、それらは落星になるであろう。牧師たちもそれと同様である。彼らは主のみ手の中にある道具にすぎない。そして、彼らがなし遂げるすべてのよいことは、キリストの力を通してなされる。彼らを通してキリストの光が輝き出なければならない。」（同上 291）

5. わたしたちのまえに開かれた「新しい生きた道」

- a. 象徴的な剣(黙示録 1:16 下句; 19:15, 21)は何を表していますか(エペソ 6:17; ヘブル 4:12)。これはどのようにわたしたちが信心の道を歩むのを助けますか。

「神は、真理を維持し、真理の道を歩むにあたって個人的な日ごとの経験を得るためのあなたの苦闘やあなたの闘いを覚えておられる。このお方のみ言葉のうちに表された通りに、世俗の方針よりも高尚な神の口から出る一つ一つの言葉を、あなたが感謝するなら、あなたはすべての善にして聖なる道へと導かれて行く。」(ローマ・リンダ・メッセージ 248)

- b. 十字架上のキリストの死によって、わたしたちにどの道が開かれましたか(ヘブル 9:8; 10:19, 20)。

「神のみ子の死によって、型が本体に合ったのである。大いなるいけにえがささげられたのである。至聖所への道が開かれている。新しい、生きた道がすべての人のために備えられる。罪を悲しむ人間は、もはや大祭司が出てくるのを待つ必要はない。これからは救い主がもろもろの天の天において祭司また助け主として務めを行われるのである。あたかも生きた声が礼拝者たちに向かって、罪のためのいけにえと献げ物はもう全部終わったと語られたかのようであった。」(各時代の希望下巻 280,281)

- c. わたしたちのために道が開かれたので、何をするようにと勧告を受けていますか(ヘブル 4:14-16)。

個人的な復習問題

1. 真の教育とは何ですか。どのようにして得ることができますか。そしてその結果もたらされるものは何ですか。
2. 神の右におられるキリストの地位を、わたしたちはどのように理解すべきですか。
3. キリストは今どこにおられますか。またこのお方は何の働きをしておられますか。
4. 七つの燭台、七つの星、そしてするどいもろ刃の剣は、どのような象徴的な意味がありますか。
5. キリストの死によって開かれた「新しい生きた道」とは何ですか。

確信をもって聖所にはいる

「兄弟たちよ。こういうわけで、わたしたちはイエスの血によって、はばかることなく聖所にはいることができ、彼の肉体なる幕をとおり、わたしたちのために開いて下さった新しい生きた道をとおって、はいって行くことができるのであり、さらに、神の家を治める大いなる祭司があるのだから、心はすすがれて良心のとがめを去り、からだは清い水で洗われ、まごころをもって信仰の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか。」(ヘブル 10:19-22)

「[神の民の信仰] は、[キリスト] と共に聖所へ入っていき、地上の礼拝者たちは、注意深く自分たちの生活を省み、自分たちの品性を偉大な義の標準と比べる。」(教会への証 5 巻 575)

推奨文献：各時代の犬争闘下巻 119 409-126, 145, 146

日曜日

10月16日

1. シオンの山

- a. 預言者イザヤの時代にシオンの山は、何を示していましたか (イザヤ 8:18; 18:7; 24:23)。
- b. 天における神のみ座の場所の名は何と言いますか (ヨエル 3:17; ミカ 4:7; 黙示録 14:1-3)。
- c. ダビデ王が自分の目をあげて神の聖所を見たとき、何が彼の大きな関心事でしたか (詩篇 14:7; 15:1)。何がわたしたちの関心事となるべきですか。

「わたしたちは神のみ言葉を研究し、瞑想し、祈る必要がある。そのとき、わたしたちは天の宮の内庭を識別する霊的な目薬を得るようになる。御座の周りで天の聖歌隊が歌っている感謝の調べをとらえるようになる。シオンは立ち上がって光を照らすとき、その光はこの上なくよく通り、讚美と感謝の歌声が聖徒たちの集会において聞かれるようになる。小さな失望や困難は見失ってしまう。」(神のむすこ娘たち 198)

2. あかしの幕屋

- a. 地上の幕屋には何という名が与えられましたか(民数記 1:50, 53; 9:15; 10:11)。なぜですか。その中にある最も重要な品は何ですか(出エジプト記 31:18; 32:15; 40:20)。

「箱は、ただ律法の板の容器にすぎなかったが、神の律法が入っていたために、それに価値と神聖さがあつたのであつた。」(各時代の争闘下巻 152)

- b. 天の聖所はなぜ、またあかしの幕屋とも呼ばれているのですか(黙示録 15:5)。契約の箱の中で最も重要なものは何ですか(黙示録 11:19)。

「天にある神の聖所が開かれたとき、契約の箱が見えた。天の聖所の至聖所の中に、神の律法がたいせつに安置されている。それは、神ご自身がシナイの雷鳴の中で語り、ご自分の手で石の板に書かれた律法であつた。」(同上下巻 152)

- c. わたしたちの魂をめぐる争闘と、至聖所でわたしたちのためになさるわたしたちの救い主の現在の働きを考えると、何がわたしたちの誓いとなるべきですか(ヘブル 10:23; 詩篇 119:109, 113)。

「サタンは、この印する時に、神の民の思いを現代の印する真理から離しておき、こうして彼らを揺らがせるためにあらゆる考案を用いている。わたしは神の覆いが神の民を悩みの時に保護するために、覆いかげられているのを見た。そして断固として真理の側に立ち、心が清い魂はすべて、全能の神の覆いをもっと覆われるのである。

サタンはこのことを知っており、できる限り多くの人の思いを真理に定着させず揺るがすために、強力な力で働いている。」(ビュー・アンド・ハルド 1849年8月1日)

「すべての魂のうちに二つの力が勝利をあらそい熱心に苦闘している。不信は、サタンに導かれて、わたしたちの力の源であられるお方からわたしたちを切り離すために集結する。信仰は、わたしたちの信仰の創始者であり導き手であられるキリストに導かれて集結する。一時間一時間、天の宇宙の目の前で、戦いは進展している。」(神のむすこ娘たち 328)

3. クリスマスの徳の高さを

- a. 信仰によって神の聖所で神に礼拝する人々を測る測りざおとは何ですか（黙示録 11:1, 19）。

「すべての人の真相が神のみ前に審査されるために持ちだされる。このお方は宮とそこで礼拝する人々を測っておられる。」（教会への証 7 巻 219）

「大審判が行われており、すでにしばらくの間行われてきた。今、主は、宮とそこでの礼拝者を測れと言われる。あなたが自分の仕事で通りを歩いているとき、神があなたを測っておられることを覚えなさい。あなたが家事にあたっているとき、あなたが会話をしているとき、神はあなたを測っておられる。ちょうど顔が芸術家によって磨かれた板の上に再現されているように、あなたの言葉や行動が天の書に銀板写真に撮られていることを覚えなさい。……

ここに進められている働き、だれが終わりの時代に立つかを調べるために宮とその礼拝者を測っている。堅く立つ人々にわたしたちの主なる救い主イエス・キリストの王国の戸は広く開かれるのである。」（パウル・コメント [E.G. 初付コメント] 7 巻 972）

- b. なぜ香壇も吟味されなければならないのですか。それは香壇の上で捧げられる香によって象徴されるわたしたちの祈りをテストすることではありませんか（黙示録 5:8; 8:3（イザヤ 1:13, 15; 箴言 28:9 参照））。

「礼拝、祈り、讃美、罪の悔悟の告白は、真の信徒から天の聖所に香として上るが、人間という堕落した媒介を通していくので、血によって清められない限り汚れており、神のみ前には何の価値もない。それらはしみのない純潔のうちに上ることがなく、神の右におられる仲保者がすべてを提示し、ご自分の義によって精錬して下さらない限り、神に受け入れられない。地上の幕屋からの香はキリストの血の清めの滴りによって潤されなければならない。このお方は御父の前で、地上の堕落のしみが何もないご自身の功績の香を持っておられる。このお方はこの香炉の中にご自分の民の祈り、讃美、告白を集め入れ、これらにご自身のしみのない義を入れられる。そのとき、キリストのあがないの供え物の功績で香りづけられ、香は完全にあますことなく受け入れられるものとして神のみ前に上る。そのとき恵み深い答えが戻ってくる。」（レクテッド・メッセージ 1 巻 344）

4. 霊的イスラエルと霊的異邦人

- a. 忠実な者たちが自分たちの国籍を持つ王国の首都は何という名前ですか（エペソ 2:19; ガラテヤ 4:26）。どの条件に基づいて、わたしたちはこの王国に受け入れられることができますか（マタイ 5:20; ヨハネ 3:35; コリント第二 6:17, 18）。

「わたしたちの国籍は天にある。」（ピリピ 3:20）

「主の家族に受け入れられる条件は、世から出てきて、そのあらゆる汚れた感化力から分離することである。神の民はいかなるかたちの偶像礼拝ともかかわりをもつべきではない。彼らはより高い標準に到達すべきである。わたしたちは世から区別されるべきである。そのとき神は、『わたしはあなたをわが王族の一員、天の王の子として受け入れよう』と言われる。真理を信じる者として、わたしたちは罪と罪人から、習慣において区別されているべきである。わたしたちの国籍は天にある。」（クリスチャン教育の基礎 481）

- b. わたしたちはどのような意味において、天のエルサレムとシオンの山の上にある聖所へ自由に入出入りすることができますか（ヘブル 10:19, 20; 12:22-24; エペソ 3:10-12）。

「信仰によってわれわれは、永遠の都の入口に立つ……のである。」（患難から栄光へ下巻 310）

- c. 自分たちが信仰による「アブラハムの子」（ガラテヤ 3:7）ではないために、庭に制限されていても、まじめに真理を学ぼうと望んでいる人々のための神の備えは何ですか（黙示録 11:2 上句）。

「神はあらゆる国民、部族、国語の中に、光と知識を求めて祈っている男女をござらんになる。彼らの魂は満たされていない。彼らは長い間灰を食べてきた（イザヤ書 44:20 参照）。すべての義の敵が誤った道に導いたので、人々は盲人のように手さぐりしている。しかし彼らはまじめな人々であって、よりよい道を知ろうと望んでいる。」（国と指導者上巻 345）

5. 贖われた者自身がそこにいる

- a. 聖書は聖所の教理を理解し、信仰によってご自分の宮に神を礼拝する人々を何と呼んでいますか (黙示録 7:4; ローマ 2:28, 29)。
- b. わたしたちが印されるために得なければならない完全な勝利を描写しなさい (黙示録 15:2, 3)。

「キリストに従うということは戦いからの自由ではない。それは子供の遊びではない。それは霊的な怠惰ではない。キリストの奉仕における喜びとはただ、しばしばきびしい戦いに直面する中での聖なる義務を意味する。キリストに従うということは、厳しい戦い、活発な働き、世と肉と悪魔に対する争闘を意味する。わたしたちの喜びは、熱心な厳しい戦いにおいてキリストのために得る勝利である。これを考えてみなさい。」(上を仰いで 217)

- c. 啓示者ヨハネはどこで勝利者を見ましたか。彼らは何人でしたか (黙示録 14:1-3)。彼らはどうのような特権を享受しますか (黙示録 7:15-17; ヨハネ 14:1-3)。

「すべての天の知的存在者は、地上で神を礼拝するために集まる聖徒たちの集会に関心を持っている。天の内庭で、彼らは地上の外庭でのキリストのための証に耳を傾ける。そして地上の礼拝者たちからの讃美と感謝は天の讃美の歌に取り上げられ、キリストが墮落したアダムの子息たちのために死なれたことが無駄でなかったため、天の庭に讃美と喜びの音が鳴り渡る。御使たちが泉の源で飲む一方で、地上の聖徒たちは、御座から流れる清い川から、すなわちわたしたちの神の都を喜ばせる川から飲むのである。」(教会への証 6 巻 366)

個人的な復習問題

1. 地上の宮と天の宮の両方でどの名を共有していますか。
2. 地上の幕屋はどの名で呼ばれていましたか。なぜですか。なぜ天の聖所は、「あかしの幕屋」と呼ばれているのですか。
3. なぜ天の宮とその礼拝者たちは測られなければなりませんか。
4. わたしたちはどのようにして天の王国の市民になれますか。
5. そこに入る権利のために獲得しなければならない勝利と印を説明しなさい。

新しい契約の聖所とその庭

「主はその聖なる宮にいまし、主のみくらは天にあり、その目は人の子らをみそなわし、そのまぶたは人の子らを調べられる。」(詩篇 11:4)

「イエスがわれわれのために奉仕しておられる天の聖所は、尊い原型で、モーセの建てた聖所は、その写しである。」(生き残る人々 424)

推奨文献：各時代の争闘下巻 126-128

日曜日

10月23日

1. 天の聖所

- a. 天における聖所—パウロ(ヘブル 8, 9, 10 章) およびヨハネ(黙示録)によって述べられているもの—は、預言者たちによって語られています。彼らはそれをどの名によって呼んでいますか。

- 詩篇 11:4 におけるダビデ
- イザヤ 6:1
- エレミヤ 25:30
- ハバクク 2:20
- ゼカリヤ 2:13

- b. アロンが大祭司として油を注がれたとき、彼は何をしなければなりませんでしたか(レビ 8:12; 9:2, 7; ヘブル 5:1-3)。天の聖所でわたしたちの大祭司として奉仕を開始する前に、キリストは何を捧げなければなりませんでしたか(ヘブル 7:26-28; 8:3)。

「贖罪の象徴的な儀式のときには、祭司長は祭司の服を脱ぎ、一般の祭司の白いリンネルの服を着て務めを行った。そこでキリストも王の衣をお脱ぎになり、人間性をまわられて、犠牲を捧げられた。ご自身が祭司であり、ご自身が犠牲であられた。」(患難から栄光へ上巻 28)

2. 庭

- a. 古い契約の下での犠牲と新しい契約の下での大いなる犠牲を、パウロはどのように対比させましたか（ヘブル 13:11, 12）。

「わたしたちの偉大な大祭司は、門の外で苦しまれたときに、ご自身の犠牲の捧げ物を完成された。そのとき、民の罪のために完全な贖罪がなされた。」（パイブル・コメント [E.G. 初作コメント] 7巻 913）

「キリストはエルサレムの門の外で苦難を受けられた。なぜなら、カルバリーは城壁の外だったからである。これはこのお方がヘブル人のためばかりではなく、全人類のために死なれたことを示すのであった。」（同上 934）

- b. 古い契約の下で、民が香の時間（出エジプト記 30:7, 8）に立っていた場所はどこですか（ルカ 1:10）。今日、わたしたちにとって香の時間はどれほど重要ですか。

「もしすべての家が祈りの家となるべき時があるとすれば、それは今である。そしてこの恐るべき危険な時代にありながら、クリスチャンだと公言する者は、家庭の祭壇を持っていない。祈りのない家庭ほどわたしに大きな悲しみを生じさせるものは他に思い当たらない。子供たちはこの怠惰の結果を表す。なぜなら、神の畏れが彼らの前にないからである。両親は自分の子供たちの周りに祈りによって垣をめぐらせるべきである。彼らは神が自分たちと共に宿って下さり、聖天使たちが自分自身と自分の子供たちをサタン^{●●}の残酷な力から守ってくれるという完全な信仰をもって、祈るべきである。

これらの原則が実行されている家庭がある一神が礼拝され、最も真実な愛が治めている家庭である。これらの家庭から、朝に夕に香ばしい香りとして祈りが神の許へ上り、このお方の憐れみと祝福が夜露のように、嘆願者の上を下るのである。

神は信仰のうちに求める人々に知恵を与えると約束された。そしてこのお方はご自分がすると仰せになった通りになさるのである。……そしてもしクリスチャンの親がこのお方を熱心に求めるならば、このお方は彼らの口に論証を満たして下さる。そしてこのご自分のみ名のために、彼らの子供たちの改心において、彼らのために力強く働いて下さる。」（家庭伝道 1889年6月1日）

- c. 新しい契約の下で、祝福された約束を待つ一方で、「外庭」におけるわたしたちの働きは何ですか（マタイ 24:44; ルカ 12:35-38; 21:36）。

3. 祭壇

- a. わたしたちが「外庭」にいる間、どのような「生きた供え物」を「祭壇」にささげようように要求されていますか（ヘブル 13:10, 15, 16; ローマ 12:1, 2）。

「昔のイスラエルの時代において、神に犠牲として献げられるものは、みな、注意深く調べられた。その動物にもし一つでも欠陥があれば、それは拒否された。なぜなら、神は、供え物は『傷のないもの』（出エジプト記 12:5）でなければならぬと命じられたからである。そのように、キリスト者は、自分たちのからだを、『神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として』（ローマ 12:1）ささげようように命じられている。そうするためには、彼らのすべての能力を、なしうる最上の状態に保たなければならない。肉体的、または知的能力を弱める習慣はすべて、人間を創造主に奉仕するのにふさわしくない者にする。」（各時代の犬争闘下巻 202,203）

- b. キリストはご自分に従う者たちの経験において、「十字架」と「祭壇」をどのように対比されましたか（マタイ 16:24-26; ヨハネ 16:33; 使徒行伝 14:22）。

「キリストはわたしたちに品性の完全を獲得するのが簡単なことだという保証はまったく与えておられない。それは日々の戦いであり、争闘であり、進軍である。わたしたちが天の王国に入るのは、多くの苦難を通してである。キリストと共にこのお方の栄光にあずかるためには、このお方の苦難にあずからなければならない。……このお方はわたしたちのために勝利された。そうであれば、わたしたちは前進するときに直面する試練があるからといって、弱気で臆病になるのであろうか。」（神のむすこ娘たち 198）

- c. 信仰のうちにあるわたしたちの先祖は（彼らのうち何百万もの人々が）、宗教裁判のときに何を「祭壇」の上に捧げましたか（黙示録 6:9-11）。どのような意味において、彼らの血は正義を求めて叫んでいますか。例を調べなさい（創世記 4:10; ハバクク 2:11）。

「彼らの秘密会議においてサタンとその天使たちが、悪人たちの心を支配した。しかしそれと同時に、人の目にこそ見えなかったが、神の天使がそのただ中に立ち、彼らの不法な命令の恐るべき記録をとり、とうてい人間の目が見るに耐えない恐ろしい行為の記録を記していたのであった。『大いなるバビロン』は『聖徒の血に酔いしれた』（黙示録 17:5, 6）。無数の殉教者たちの寸断された体は、この背信した権力に対する神の復讐を呼び求めた。」（各時代の犬争闘上巻 57）

4. 祝福

- a. アロンは大祭司としての就任式が終わったときに、何をしましたか(レビ 9:23, 24)。
- b. キリストはみ座につかれたときに何をなさいましたか。このお方はどのようにご自分の民を祝福なさいましたか(使徒行伝 1:8, 9; 2:1-4, 16, 17)。

「キリストは天の門の中に入って行かれて、天使たちのさんびのうちに王座につかれた。この儀式が終わるとすぐ、聖霊は豊かな流れとなって弟子たちの上にくんだり、キリストは永遠の昔から父と共に持つておられた栄光をお受けになった。ペンテコステの聖霊降下は、あがない主の就任式が完了したことを知らせる天からの通報であった。主は、その約束に従って、ご自分が祭司、また王として、天と地のすべての権威を引き継ぎ、神の民の上に立つ油そそがれた者となられたしるしとして、弟子たちに天から聖霊を送られたのであった。」(患難から栄光へ上巻 34)

- c. イエスは慰め主、聖霊をつかわされることによって、どの約束を果たされましたか(ヨハネ 14:16-18; 16:7)。この祝福は、どのようにわたしたちにもたらされるかを説明しなさい(使徒行伝 5:32)。

「聖霊とは何であろうか。それはイエス・キリストの代表であり、それはわたしたちのかたわらに立って、わたしたちの嘆願をご自分の功績によってことごとくかぐわしいものとして御父の前に捧げて下さるわたしたちの助け主である。そこで、このお方は最もつましい聖徒の嘆願を受け入れて下さる。このお方はあなたがいくら持っているか、あるいはどれほどの資産をもつて裕福であるかとはお尋ねにならない。そうではなく、神の許へ自分の嘆願を持つてくる最もつましい聖徒は、その感謝の捧げ物がこのお方の恵みの富でかぐわしいものとされ、御父はそれをあなたの捧げ物として受け入れて下さり、祝福、恵みにつぐ恵みがあなたにもたらされる。」(キリストを映して 285)

「〔慰め主〕は、わたしたちがどこにしようと傍らにあつて一言われたことやなされたことに対する見張り人、目撃者であり—もしわたしたちがこのお方の保護のもとに身を置くならば、敵の攻撃からいつでも守る用意ができておられる。しかし、わたしたちは自分の分を果たさなければならぬ。そうすれば、神はご自分の分を果たして下さる。わたしたちがこのお方のために試練や苦しみのうちに入れられるとき、慰め主がわたしたちの傍らにあつてわたしたちにキリストの言葉と教えを思い起こさせて下さる。」(ユース・インストラクター 1896年8月20日)

5. 必要とされている準備

- a. 約束された祝福を受けるために、弟子たちは要求されている準備とは何ですか(使徒行伝 1:13, 14)。

「弟子たちは人々と接するのにふさわしくなるように、また、日常の交わりの中で罪人をキリストに導くような言葉を語るのにふさわしくなるように、とりわけ熱心に祈った。意見の不一致や優位を望む心をすべて捨て、クリスチャンの交わりの中で互いに親密になった。彼らはますます神に近づいていった……」

こうした準備の日々は、深く心をさぐる日々であった。弟子たちは霊的な不足を感じ、救霊の働きをするのにふさわしい者となることができるように、聖油が注がれることを祈り求めた。彼らは自分たちのために祝福を求めたのではない。彼らは魂の救いという重荷を負っていた。弟子たちは、福音が世に宣べ伝えられなければならないことを悟って、キリストが約束された力を求めたのである。」(患難から栄光へ上巻 31)

- b. 満ちみちた聖霊が臨むことに関して、どのような歴史が繰り返されますか(ゼカリヤ 10:1; 使徒行伝 3:19)。

「クリスチャンはすべての不和を取り除き、失われた者を救うために神に自らを捧げようではないか。彼らに信仰のうちに約束された祝福を求めさせなさい。そうすればそれはもたらされる。」(教会への証 8 巻 21)

個人的な復習問題

1. 天の聖所はある預言者たちによってどの名で呼ばれていましたか。
2. 昔のイスラエルでは、エルサレムの民は、香の捧げ物の時間に外庭で祈っていました。わたしたちはこの時に何をすべきですか。
3. アロンは自分の就任式のときに何をしましたか。キリストはご自分が昇天なさったときに何をなさいましたか。
4. 約束された祝福を受ける前に、弟子たちは何をする必要がありましたか。
5. 約束された祝福は、いつ、どの条件に基づいて、再び注がれますか。

第一安息日献金

貧しい国用の文書のために

わたしたちがクリスチャン教会の歴史を考えると、とくに16世紀の宗教改革のあいだ、いかに文書が神の御手にあつて真理を促進するのに力強かつたかを見ます。マルチン・ルター、ジャン・カルバン、ジャック・ルフェーブ、そして他の偉大な改革者たちは、印刷された書物がなければ、働きは小さな人の輪に限られていたであろうことを実感しています。神のみ摂理によって、印刷の発明は、多くの国々において福音の宣布のために大きな祝福でした。



印刷された書物がなければ、働きは小さな人の輪に限られていたであろうことを実感しています。神のみ摂理によって、印刷の発明は、多くの国々において福音の宣布のために大きな祝福でした。

「これらの改革者たち、すなわち彼らの抗議（プロテスト）がわたしたちにプロテスタントという名を与えた人々は、神が自分たちを世に福音の光を与えるために召しておられることを感じた。そしてこうすることにおいて、彼らは自分たちの財産、自由、そして自分自身の命を犠牲にする用意ができていた。わたしたちはこの大争闘の最後の戦いにおいて、初期の改革者たちが自分たちの信任に対して忠実であったのと同じくらい、自分たちの信任に対して忠実であろうか。迫害と死に直面しながら、真理は遠近に広まった。」（家庭伝道 1893年11月1日）

わたしたちがアドベンチスト運動と改革運動の始まりを考えると、現代の真理を載せた出版物がさまざまな国で多くの人々に伝えるおもな道具であったことがわかります。安息日聖書教科、預言の霊からの書物、聖書、そして冊子はなお人々に伝え、永遠の福音へひきつけるためのすばらしい手段です。

多くの国々の多数の人々はこれらの出版物のための支払いができません。出版物そのもの以外に、これらの静かな使命者（福音文書）の輸送費は非常に高価なため、わたしたちは世界中の信仰の同志からの資金的な援助を必要としています。

みなさんが永遠の福音を説教するためにさまざまな国へ行くことができなくても、みなさんの惜しみない心からの捧げ物は、何千もの人々に現代の真理を伝えることを可能にします。

特別献金が集められる次の安息日には、どうぞ神がみなさんに与えてくださったお金を、世界中の何千もの人々がこの時代のための真理を知ることができるように用いてください。福音の光がさらに促進するために貢献するとき、神がみなさんを豊かに祝福してくださいますように。

- 世界総会出版部 -

一人びとりに責任がある

「わたしたちひとりびとりは、神に対して自分の言いひらきをすべきである。」(ローマ 14:12)

「すべての人の働きは神の御前に審査され、忠実か不忠実かが登録されるのである。」(彼を掲げよ 327)

推奨文献：各時代の大争闘下巻 215-217

日曜日

10月30日

1. ただ二種類の人々

- a. 贖いの計画の光において、世に存在する二種類の人々を述べなさい(ローマ 2:6-10; ペテロ第一 4:18)。

「急速に人々は自分たちが選んだ旗印の下で隊列を組んでいる。……わたしたちの主の現れのために見張り、待ち、働いている人々がいる。その一方で他のグループは最初の大背教者の指揮の下へと急速に落ちこんでいる。……

ただ二つのグループしかないのである。」(牧師への証 364, 365)

- b. 神はすべてをご覧になり(ヘブル 4:13)、各個人が自分の行動に対して神聖な裁判の前に責任があるため(詩篇 62:12; ローマ 14:12)、全能者はすべての人間の厳密な記録をどこに保持しておられますか(エレミヤ 2:22; 17:1)。

「天の書物の中の各自の名の向かい側には、恐るべき正確さで、すべての悪い言葉、利己的な行為、義務の怠慢、隠れた罪、巧妙な偽善行為などが記入されている。天からの警告や譴責をなおざりにしたこと、時間を浪費し、機会を活用しなかったこと、善きにつけ悪きにつけ、及ぼした感化とその広範囲にわたる結果などがみな、記録天使によって記録されている。

神の律法が、審判の時に人々の品性と生活を吟味する基準である。」(各時代の争闘下巻 213,214)

2. 厳密な記録

a. 命の書と死の書について何と記されていますか（詩篇 90:8; 黙示録 20:12）。

「書物が開かれる。それはいのちの書と死の書である。いのちの書には、聖徒たちの善行が記されている。死の書には悪人たちの悪い行いが記されている。これらの書が、律法の書、聖書と比べられ、それに従って人々は審かれる。」（初代文集 121）

b. 覚えの書には何が記されていますか。そしてなぜそれがわたしたちにとって重要なのですか（マラキ 3:16; 詩篇 56:8）。

「神の前に、『覚えの書』が記されているが、それには、『主を恐れる者、およびその名を心に留めている者』の善行が記録されている（マラキ書 3:16）。彼らの信仰の言葉、彼らの愛の行為は、天に記録されている。ネヘミヤは、このことについて、次のように言っている。『わが神よ、……わたしを覚えてください。……神の宮……のためにわたしが行った良きわざをぬぐい去らないでください』（ネヘミヤ記 13:14）。神の覚えの書には、すべての正しい行為が永久に記されている。誘惑を退けたこと、悪に打ち勝ったこと、あわれみの言葉をかけたことなどが、忠実に記録されている。また、すべての犠牲の行為、キリストのために耐えたすべての苦しみや悲しみが記録されている。」（各時代の争闘下巻 212,213）

「集会をやめることはしないで、たびたび互いに語り合う人々について、覚えの書がかかっている。残りの民は、小羊の血と彼らのあかしの言葉によって勝利すべきである。ある人々は、小羊の血だけで勝利するものと思って、自分たちで特別の努力をしていない。神は、恵みのうちにわれわれに言葉の力をお与えになったことを、わたしは見た。神は、われわれに舌をお与えになった。われわれは、その用い方について神に責任を問われるのである。われわれは、われわれの口をもって神に栄光を帰し、真理と神の限りないあわれみをほめたたえ、小羊の血によるわれわれのあかしの言葉によって勝利しなければならない。われわれは、集会に来て黙ってはいならない。集会に来て神の誉れと栄光と力について語る人々だけが、主に覚えられる。このような人々の上に神の祝福がくだり、彼らは新しい力を受ける。」（初代文集 215,216）

3. 偽りの教理に対する警告

- a. 「一度救われたら、常に救われている」という教理が聖書と矛盾することを、どのように証明することができますか（ペテロ第二 1:10, 11; マタイ 24:13）。キリストが悪霊の支配から人を救われた後に、何が起こり得ますか（ルカ 11:24-26）。

「自己義はのろいであり、人間の装飾であって、サタンが自分の栄光のために用いる。魂を自己賞賛とお世辞で飾る人々は初めの霊よりも悪い他の七つの霊のための道を備えているのである。彼らが真理を受け入れるそのときですら、彼らは自らを欺いている。彼らは自己義という土台の上に建てているのである。」（バイブル・コメント [E.G. 初作コメント] 5 巻 1093）

- b. パウロがサタンの支配から救われたときに（テモテ第二 1:9）、彼はどの危険を心に留めていましたか（コリント第一 9:26, 27.）。彼はどのようにヘブルのクリスチャンたちに「一度救われたら、常に救われている」という教理に対して警告しましたか（ヘブル 6:4-6）。
- c. キリストの約束に基づくどの望みを、キリストを個人的な救い主として受け入れる人々によって、大事にされるべきですか（ローマ 8:24, 25; テトス 3:7）。ペテロの失敗から、わたしたちはどのような警告を受けるべきですか。

「ペテロの失敗は、瞬間的でなく、除々に起こった。自己を過信して、救われたものと思いついでいるうちに、一步一步と墮落の道をたどり、ついには、主を拒否するようになった。わたしたちも天国にはいるまでは、もはや自分は試練に負ける心配はないと感じたり、自信をもったりすることは安全ではない。救い主を受け入れた者は、たとえどんなにまじめな改心者であっても、わたしたちは救われている、と言ったり、また、感じたりするようにその人びとに教えてはならない。これは、誤解を招きやすい。もちろん、わたしたちは、すべての者に希望と信仰とをいさぐように教えなければならない。しかし、みずからをキリストにささげ、キリストに受け入れられたことを知ってもなお、わたしたちは、誘惑の手のとどかないところにいるわけではない。」（キリストの実物教訓 134）

「わたしたちは決して満足した状態で休んだり、『わたしは救われている』と、前進するのを止めてしまったりしてはならない。この考えをいさぐとき、見張るため、祈るため、より高い所に到達しようと押し進む熱心な努力のための動機がなくなる。聖化された舌は、キリストが来られ、神の都へ門を通して入っていくまで、これらの言葉を口にするところを見出されることがない。」（セクレット・メッセージ 1 巻 314）

4. 気のゆるんだ無頓着な精神の危険

- a. 裁きにおいて考慮されるこれらの二つの悪の形態について、どちらの方が神にとっていっそう罪深いですか（ペテロ第二 2:20-22；ヘブル 10:26-31）。

「人の大きな危険は自己欺瞞のうちにあること、自己満足にひたること、それによって自分の力の源である神から離れることにある。わたしたちの生来の傾向は、神の聖霊によって正されないかぎり、その中に道徳的死の種を持っている。わたしたちが神と命のつながりを持たないかぎり、自己愛、自己放縦、そして罪への誘惑の神聖でない影響に抵抗することができない。……

わたしたちが自分が全く無力であることを認め、いっさいの自己信頼を捨てたときに初めて、神の力をつかむのである。」（教会への証 8 巻 315, 316）

- b. 毎日わたしたちはどの訓告を真剣に考慮すべきですか（コリント第一 10:12；コリント第二 13:5, 6）。

「命がながらえるかぎり、確固たる目的をもって愛情と感情を守る必要がある。内の墮落があり、外の誘惑がある。そして神の働きが進められるところではどこでも、魂に圧倒的な力で誘惑が臨むように、サタンが状況をお膳立てするために計画する。わたしたちは神により頼み、命がキリストと共に神のうちに隠されるのでないかぎり、一瞬たりとも安全ではいられない。」（パウル・コムタリ [E.G. オイトコメント] 2 巻 1032）

- c. わたしたちは礼拝のときの気のゆるんだ態度を避けるために何ができますか（第一 14:40）。どのような近代の礼拝形式はしばしば偽りの教理に伴いますか（テモテ第二 4:3, 4）。

「叫んだり、ドラム、音楽、踊りがあるであろう。理性的な存在の感覚が非常に混乱し、正しい判断を任せることができない。そしてこれが聖霊の働きと呼ばれるのである。

聖霊は決してそのような方法で、すなわちそのような騒々しい騒ぎの中で、自らを表すことはない。これは純潔で、誠実で、とこしえに続き、高尚にし、聖化するこの時代のための真理を、効果のないものとするための巧妙な手段をおおいかくすサタンの発明である。……

主はご自分の奉仕において、興奮や混乱ではなく、秩序と規律があることを望まれる。」（主は来られる 234）

5. わたしたちの主な懸念事項

- a. なぜ調査審判において、多くの名が命の書から除かれるのですか（出エジプト記 32:33; エゼキエル 18:20, 24）。

「命の書には、神に奉仕したすべての者の名がしるされている。もしそのうちのだれかが神から離れたり、または、頑強に罪から離れず、ついに聖霊の働きに心を堅く閉じてしまったりするならば、彼らの名は、審判のときに命の書から消され、滅ぼされてしまう。」（人類のあけぼの上巻 382,383）

- b. わたしたちが栄光の王国で場所を持つことを望むなら、わたしたちの名に関してどの確信を持つべきですか（黙示録 3:5; 21:27）。

「神に献身したことのあるすべての人々の名が命の書に記されている。そして彼らの品性は今このお方のみ前に審査を受けている。神の御使たちは、道徳的な価値を測っている。彼らはいま生きている人々の名が命の書にとどまることができるかどうかを調べるために、彼らのうちにおける品性の発達を見守っている。わたしたちが品性の衣を洗い、それらを小羊の血によって白くするための恩恵期間がわたしたちに与えられている。だれがこの働きをしているであろうか。だれが自ら罪と利己心から分離するであろうか」（ハイブル・コメント [E.G. 初刊コメント] 7巻 960）

「もしわたしたちが今、天の事柄を熟考することに喜びを見出さないならば、もしわたしたちが神の知識を求めることに関心もなく、キリストのご品性を眺めることに何の喜びもなければ、もし聖潔がわたしたちにとって少しも魅力がなければ—そうであれば、わたしたちの天国の望みがむなしいことは確実である。神の御心への完全な服従が、クリスチャンの前に絶えずあるべき高い目標である。」（教会への証 5巻 745）

個人的な復習問題

1. 贖いの計画の光における二種類の人々を定義しなさい。
2. あなたは命の書と死の書について、何を知っていますか。
「一度救われたら、常に救われている」という教理の過ちを、どの聖句が証明していますか。
4. ヘブル 10:26–31 を説明しなさい。
5. 黙示録 3:5 を説明しなさい。

神は日を定められた

「神は、義をもってこの世界をさばくためその日を定め」（使徒行伝 17:31）

「すべての国民が神の御前に裁きを受けるのであるが、それでもなお、このお方はあたかも地上に他の存在がないかのように、厳密かつ綿密な精査をもって各個人の事情を吟味なさる。」（彼を掲げよ 330）

推奨文献：各時代の大争闘下巻 218-223

日曜日

11月6日

1. 死と裁き：二つの避けられない出来事

- a. 大いなる裁きの日について、聖書は何を教えてくださいか（伝道の書 12:14; ヘブル 9:27）。

「わたしたちが神の子となると、わたしたちの名は小羊の命の書に記され、それは調査審判のときまで残っている。それから各個人の名が呼ばれ、彼の記録が『わたしはあなたのわざを知っている』と宣言なさるお方によって吟味される。もしその日に、わたしたちのすべての悪い行為が完全に悔い改められていることが明らかにされないなら、わたしたちの名は命の書から除去され、わたしたちの罪がわたしたちを不利に陥れるのである。もし自称信徒が、自己満足に陥り、言葉や精神において、神の聖なる律法の最も小さな戒めをやぶるなら、彼はイエスを誤って表すことになり、裁きのときに次の恐ろしい言葉が語られる、『命の書から彼の名を除去去れ。彼は悪を働く者である』。しかし御父は、疑いや誘惑に悩まされているかもしれないが、自己に信頼せず、神を畏れる魂を憐れまれる。イエスは彼のために嘆願なさり、彼の名を御父とご自分の聖天使たちの前で告白なさるのである。」（サイン・オブ・ザ・タイムズ 1885年8月6日）

- b. だれか神の裁きをまぬかれる人はいますか（ローマ 2:1-3; 14:12）。

「すべての者が調べられねばならない。そして、しみもしわもそのたぐいのものがいっさいあつてはならないのである。」（各時代の争闘下巻 224）

2. 全世界の罪

- a. なぜ全世界が裁かれなければなりませんか（ローマ 3:9, 10, 19, 20, 23; 5:16, 18, 20）。
- b. 忠実なクリスチャンは免除されますか、あるいは彼らもまた裁かれますか（ローマ 14:10, 12; コリント第二 5:10）。
- c. ユダヤ国家のどの落とし穴を、注意深く避けなければなりませんか（ローマ 11:13, 17-21）。

「心に神の律法をしるされる民に、神の恩恵が保証されている。彼らは神と一つである。ところがユダヤ人は神から離れていた。……彼らの心は罪とがのために暗くなっていたが、昔神が非常に大きな恩恵をお与えになったので、彼らは自分たちの罪を大目にみていた。彼らは自分たちが他国民よりもすぐれていて、神の祝福を受ける資格があるとうぬぼれていた。

こうしたことは、『世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである』（コリント第一 10:11）。われわれは、どんなにかたびたび神の祝福を誤解し、自分たちのうちに何かよいところがあるから恵まれるのだとうぬぼれることだろう。神はわれわれのためにしたいとお思になることをなさることができない。神の賜物は、われわれの自己満足を増長させ、われわれの心を不信と罪の中にかたくなにするために用いられる。」（各時代の希望上巻 107,108）

「すべての魂は、ゆだねられたタラントに対して責任がある。教会として、個人として、わたしたちは高められた聖なる基礎、すなわち真理がわたしたちを置いた基礎の上に立たなければならない。この終わりの時代にわたしたちに輝く集められた光を、わたしたちは品性と一致のうちに世に表さなければならない。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1893年4月25日）

- d. はじめに裁かれるのはだれですか—義人ですか、不信心者ですか（ペテロ第一 4:17, 18）。

「象徴的儀式においては、告白と悔い改めによって神の前に出て、その罪が罪祭の血によって聖所に移された者だけが、贖罪の日の儀式にあずかることができた。そのように、最終的な贖罪と調査審判の大いなる日に、審査されるのは、神の民と称する人々だけである。悪人の審判は、これとは全く別の働きで、もっとあとで行なわれる。」（各時代の大争闘下巻 211）

3. 命の書にあるわたしたちの名

- a. すべての真のクリスチャンが喜ぶべきおもだった理由は何ですか (ルカ 10:20; ペリピ 4:3)。

「いのちの書には、神の働きをしたすべての人の名が記されている。」(各時代の
大争闘下巻 212)

「イエスが、彼の恵みに浴する人々のために嘆願される一方において、サタンは、彼らを罪人として神の前に告訴する。大欺瞞者サタンは、彼らに疑惑を抱かせ、神に対する信頼を失わせ、神の愛から彼らを引き離し、神の律法を犯させようとしてきた。そして今度は、サタンは、彼らの生涯の記録を指摘し、品性の欠陥、贖い主のみ栄えを汚したところの、キリストに似ていない点、そして、彼が誘惑して彼らに犯させたすべての罪を指摘して、これらのことのゆえに彼らは自分の臣下であると主張するのである。

イエスは、彼らの罪の弁解はなさらないが、彼らの悔い改めと信仰を示して、彼らの許しを主張なさり、天父と天使たちの前で、ご自分の傷ついた両手をあげ、わたしは彼らの名を知っている、わたしは彼らを、わたしのたなごころに彫り刻んだ、と言われるのである。『神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をかろしめられません』(詩篇 51:17)。(同上下巻 217)

- b. キリストはご自分に忠実に従う人々に、どのような保証をお与えになりますか (マタイ 24:13; 黙示録 2:10)。

「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなつたものとなつたので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。」(同上 216)

- c. 自分たちの罪のうちに救われることができると考える自称クリスチャンの運命はどのようなものですか (出エジプト記 32:33; エゼキエル 18:24; マタイ 7:21-23)。

「すべての名があげられ、すべての人の事情が詳しく調査される。受け入れられる名もあれば、拒まれる名もある。もしだれかが、罪を悔い改めず、許されないまま、記録の書に残しておくならば、彼らの名は、いのちの書から消されて、彼らの善行の記録も神の覚えの書から消される。」(同上 215)

4. 「大いなる日のさばきの時まで……閉じ込めておかれた」

- a. 神が裁きの働きのために定められた特別な時一世の終わりの時一について、わたしたちは何を 읽みますか（使徒行伝 17:31; 黙示録 11:18）。その時の厳肅さを述べなさい（マタイ 7:13, 14）。

「神の義なる裁きは、軽薄な者を容赦はしない。大いなる光を持ちながら、信心深い模範によって、自分たちと交わっている人々に真理の光を与えることを怠るならば、言い訳は許されない。

不信心者ばかりではなく、教会員にも次の言葉が語られている、『あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ』（イザヤ 55:6）。自分のところにもたらされた光と共に、信徒には厳肅な責任が課される。彼は軽薄さによってキリストの宗教をなおざりにするようなことを自らに許してはならない。

わたしたちが永遠の関心事の問題を、生活の一般的な事柄の二の次にするのは、危険である。……

わが兄弟姉妹方よ、あなたがたをわたしたちの生きている時代の重要性に目覚めさせ、あなたに心と生活の忠実な吟味へ導くために、わたしは何と言えばよいのであろうか。あなたの生活は、地上でキリストが送られた犠牲の生活に調和しているであろうか。人類にご自分の御子をお与えになることによって、御父はご自分の教会に、自己を忘れた愛のすばらしい模範を与えてくださったのである。」（レビュー・アノド・ハルド 1911年9月28日）

- b. ダニエル 7 章は、裁きが死のときではなく、世の終わりの時に行われるという聖書の教えを確認しています。次を要約しなさい、ダニエル 7:9, 10, 22, 26。
- c. ユダはその時について、何とっていますか（ユダ 6）。
- d. わたしたちは父祖たち（ヘブル 11:13-16）、預言者たち（ダニエル 12:13; 使徒行伝 2:34; ヘブル 11:39, 40）、使徒たち（ヨハネ 14:1-3）、またキリストにあって死んだ人々が、天にいるのではないことを、どのように知りますか（テサロニケ第一 4:13-17）。
- e. 聖書のどの言葉が、不信心者が火の池で燃え続けているのではないことを教えていますか。彼らが自分たちの選んだ運命に直面する前に、何が行われなければなりませんか（ペテロ第二 2:9; ヨハネ 5:28, 29 下句）。

5. シオンにおける裁きの座

a. 世の終わりに、裁きはどこで行われますか（詩篇 9:7, 8）。

「審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく—その時がいつかはだれも知らないが—生きている人々の番になる。神のおおるべき御前で、われわれの生涯が調査されねばならない。」（各時代の争闘下巻 224,225）

b. 天において神はどこにご自分の御座を持っておられますか（詩篇 9:11; イザヤ 6:1; 黙示録 7:15; 14:1, 2）。

c. わたしたちの救いという関心事のために、神を知らなければならないのですから（ヨハネ 17:3）、この知識には何が含まれていますか（詩篇 9:16; 77:13）。神の民の裁きの後、どの出来事がありますか（ヘブル 9:27, 28; コロサイ 3:4）。

「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大なる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあって必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。」（同上下巻 222）

「型としての奉仕において、大祭司は、イスラエルのために贖罪をなし終えると、外に出て来て、会衆を祝福した。そのように、キリストも、仲保者としての働きを終えられると、「罪を負うためではなしに……救いを与える」ために来られて、彼を待っている人々に永遠の生命をお与えになる（ヘブル 9:28）。」（同上下巻 218）

個人的な復習問題

1. 裁きの日について、聖書は何と言っていますか。
2. クリスマンも裁かれますか—そうだとすると、いつですか。
3. すべてのクリスマンは、どの保証を喜ぶべきですか。
4. 裁きの明確な時について、わたしたちは何を知っていますか。
5. キリストは聖所でのご自分の仲保の働きの終わりに、何をなさいますか。

調査審判

「かずかずの書物が開かれた……死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。」(黙示録 20:12)

「最初に地上で生きていた人々からはじめ、わたしたちの助け主は、歴代の各人の裁判を提示して、生きている者で終わられる。」(信仰によってわたしは生きる 212)

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 210-213

日曜日

11月13日

1. 死人を裁くための時

- a. 神が墓の中にいる聖徒たちを裁くために定められた時はいつですか。彼らは死んでいる間に裁かれますか、あるいは、彼らが命によみがえった後ですか (黙示録 11:18; 20:12)。
- b. 眠っている聖徒たちは、いつ命によみがえるのに「ふさわしい者」とされませんか。彼らは(キリストが来られるときに)まずよみがえり、それから、自分たちの報いにふさわしいものであるかどうかを調べるために裁かれるという証拠がありますか (使徒行伝 3:19, 20; ルカ 20:35)。

「調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。しかし、使徒ペテロは、はっきりと、信者の罪は、『主のみ前から慰め〔原文では refreshing (活気づけ、回復の意)〕の 때가』くるときにぬぐい去られる。そして、『キリストなるイエスを、神がつかわして下さる』と言っている (使徒行伝 3:19, 20)。」(各時代の争闘下巻 218)

- c. キリストの来臨のときに、死せる義人があらかじめ裁きにおいて受け入れられていなければ、命のよみがえりにおいて、呼び出されることがありますか (ヨハネ 5:28, 29; コリント第一 15:52; テサロニケ第一 4:14-16)。

2. 主要な出来事のタイミング

- a. 生ける聖徒たちが、終わりの時のあらゆるわなや災害を「のがれることができるように(ふさわしく)」されるのは、いつですか—キリストの来臨のときですか、その前ですか(ルカ 21:36)。

「調査の働きが終わり、各時代においてキリストに従う者であると称してきた人々の調査と決定がなされた時、そのとき初めて、恩恵期間が終わり、恵みの扉が閉じられる。このように、『用意のできていた女たちは、花婿と一緒に婚宴のへやにはいり、そして戸が閉められた』という短い一節の中に(マタイ 25:10)、救い主の最後の務めが終わって、人間の救いの大事業が完成される時までが、示されている。」(各時代の大争闘下巻 145)

- b. キリストはご自分が来られるときに、何を持ってこられますか(イザヤ 62:11; 黙示録 22:12)。キリストはいつ王国を受けられますか—裁きの前ですか、裁きの終わりの時、すなわちご自分の仲保の働きが終わりになる時ですか(ダニエル 7:9, 10, 13, 14, 18)。

「キリストが仲保の最後の働きを行なうために、そしてその最後にはみ国を受けるために、神の前に出られるのに信仰によって〔キリストに〕従っていく者たちは、すべて、婚宴のへやにはいるものとして表わされているのである。」(同上)

- c. 象徴的な「婚宴(結婚)」後(ルカ 12:36)、—王国を受けられた後に(ルカ 19:12; 黙示録 11:15)—キリストは来られます(マタイ 25:31, 34)。「婚宴の客たち」はいつ吟味されるために、裁き主の前に立つようになりますか—象徴的な「婚宴(結婚)」の後ですか、前ですか(マタイ 22:10-14)。

「マタイによる福音書 22 章のたとえにおいて、同じ婚宴の象徴が用いられ、婚宴に先だって調査審判が行なわれることが明示されている。婚宴に先だって、王は、すべての客が、礼服、すなわち、小羊の血で洗って白くしたしみのない品性の衣を着ているかを見るために入ってくる(マタイ 22:11; 黙示録 7:14)。欠けていることを発見された者は、追い出されるが、調査の上で礼服を着ていることが認められたすべての者は、神に受け入れられ、み国にはいつて神のみ座のもとに座るに足る者と見なされるのである。品性を調査し、だれが神の国に入る準備をしたかを決定するこの働きが、調査審判の働きであり、天の聖所における最後の働きなのである。」(同上)

3. 裁きのメッセージのための適切な時

- a. 神が「義をもってこの世界をさばく」ため時を定められたので（使徒行伝 17:31）、このお方はその時が来たら、どのメッセージをすべての国民、民族、国語に送ると約束なさいましたか（黙示録 14:6, 7）。

「この〔黙示録 14 章の第一天使の〕メッセージは、終末時代においてのみ宣布される福音の一部分である。というのは、その時において初めて、さばきの時が来たといえることができるからである。」（各時代の争闘下巻 50〔筆者強調〕）

- b. この厳粛なメッセージは、調査審判をキリストの来臨の後においていますか、前ですか（黙示録 14:7-14）。

「ダニエル書 8:14 に示されているところの、キリストがわれわれの大祭司として、聖所を清めるために至聖所に来られるということ、ダニエル書 7:13 に提示されている、人の子が日の老いたる者のもとに来ること、そしてマラキが預言した主がその宮に来られるということ、これらはみな、同じできごとの描写である。そして、これはまた、キリストがマタイによる福音書 25 章の 10 人のおとめのたとえの中で語られた、婚宴の席への花婿の到着ということによっても表わされている。」（同上 下巻 142）

- c. わたしたちの助け主は（ヨハネ第一 2:1, 2）、神の裁きの座の前で、だれの訴訟のためには嘆願をなさり、まただれの訴訟のためには嘆願なさいませんか（マタイ 10:32, 33）。

「天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。キリストは、ご自分の死によって開始された働きを、復活後、天において完成するために昇天されたのである。われわれは、信仰によって、『わたしたちのためにさきがけとなって、はいられた』幕の内に入らなければならない（ヘブル 6:20）。そこには、カルバリーの十字架からの光が反映している。」（同上 222, 223）

- d. 象徴的な「婚宴（結婚）」の後、何が起こりますか（ルカ 12:36, 37, 40）。

4. わたしたちの最も緊急な必要

- a. 調査審判が進行している間、わたしたちの最も緊急な必要は何ですか（イザヤ 55:6, 7; ヨハネ第一 1:9）。

「自分たちの過ちを隠し、言いわけをする人々が、もし、サタンが彼らのことでどんなに喜び、そうした彼らの行為のゆえにキリストと聖天使たちをどんなに嘲笑するかを見ることができるならば、彼らは、急いでその罪を告白し、捨て去ることであろう。」（各時代の大争闘下巻 223）

- b. 裁きの座の前で、キリストがわたしたちのために嘆願しておられる一方で、このお方はわたしたちから何を期待なさいますか（マルコ 13:35-37; ヘブル 3:13, 14）。

「われわれは、今、大いなる贖罪の日に生存している。型としての儀式においては、大祭司がイスラエルのために贖罪をなしている間、すべての者は、主の前に罪を悔い改め、心を低くすることによって、身を悩まさなければならなかった。もしそうしなければ、彼らは、民の中から絶たれるのであった。それと同様に、自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願うものはみな、今、残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に身を悩まさなければならない。」（各時代の大争闘下巻 224）

「キリストは、男女の理解力に、贖いの大いなる計画の根底にある原則を開き、彼らが人類の救いのためにご自分の犠牲の働きの中でご自分と協力するように導くことができるために来られた。しかし、キリストの名を帯びている多くの人の側における熱心さの欠乏、自己否定の欠如が、まさにキリストがそのために地上に教会を組織された働きそのものをなすことを妨げてきた。自称クリスチャンの多くが表す利己心や無関心は、もし自分たちの前に、自称クリスチャンの生活の中で、品性を変える福音の力に対する生きた証があったなら、自分たちの不信から目覚めたはずの多くの人々の良心をなだめてしまう。」（ビュー・アンド・ハルト 1911年9月28日）

「キリスト来臨の正確な時はわからないのだから、目をさましているようにと命じられている。『主人が帰ってきたとき、目を覚めているのを見られる僕たちは、さいわいである』（ルカ 12:37）。主の来臨を待ち望んでいる者たちは、何もしないでただ期待して待っているのではない。キリストの来臨を期待することによって、人々は主を恐れ、不義に対する主のさばきを恐れるのである。彼らは主がさし出されたあわれみをこぼむ大きな罪を自覚するのである。主を待ち望んでいる者たちは真理に従うことによって自らの魂をきよめる。」（各時代の希望下巻 101,102）

5. わたしたちが熟考すべき問題

- a. ある者は調査審判のテストに合格し、ある者は合格しない方法を、何が描写していますか (ルカ 17:34-36)。

「その時が来ても、義人と悪人は、その死ぬべき肉体のまま、地上で生活をしている。天の聖所では、最終的で取り消すことのできない決定が宣告されたことも知らずに、人々は、植えたり、建てたり、飲んだり、食べたりしている。」(各時代の争闘下巻 225)

- b. 裁きの日に、わたしたちはどのように希望を持つことができますか (詩篇 130:3-8)。

「わたしたちの裁き主となられるお方は、わたしたちのわざを知っておられる。このお方はすべての誘惑と試練を理解してくださり、わたしはそれをうれしく思う。このお方はすべての魂を取り囲む状況を知っておられる。このお方はわたしたちの欠点をご存じて、わたしたちの弱さを思い見て下さる。『もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる』とヨハネは言っている (ヨハネ第一 2:1)。ああ、イエスの名は何と尊く、このお方が御父の前で告白されるすべての名は何と尊いことであろう!わたしたちの恵み深い贖い主が、哀れな悔いた者について、『彼はわたしのものです。わたしは彼の名をわたしのたなごころに掘り刻みました』と言われるとき、次の答えが返ってくる、『わたしは彼の名を命の書から消し去るようなことはしない。かえって、彼の罪は彼に対してもはや思い出されることはない。』」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1885年8月6日)

個人的な復習問題

- なぜ使徒行伝 3:19, 20 は、調査審判がキリストの再臨の前に成し遂げられなければならないことを証明しているか説明しなさい。
- もし生きている義人が終わりの時に世にもたらされる「わな」を「のがれることができるように(ふさわしく)」されるとすれば、いつ彼らは「のがれるのにふさわしい」という判決を受けなければなりませんか (ルカ 21:36) —キリストの来臨のときですか、その前ですか。
- マタイ 22:10-14 からまた、どのように調査審判が、栄光のうちにイエスが戻られる前に行われなければならないことが明らかですか。
- 黙示録 14 章の第一の御使は、いつ、「神の裁きの時がきた」と宣布しますか—キリストの来臨のときですか、その前ですか。黙示録 14:6, 7, 15, 16 を読みなさい。
- 調査審判に直面する準備において、わたしたちに何が最も緊急に必要とされていますか。

ヨシュアと御使

キリストの義の衣を着たものは、みな彼の前に選ばれ、忠実で真実なものとして立つのである。サタンは彼らを、救い主の手から奪い去る力がない。キリストは、忍耐と信仰をもって保護を仰ぎ求める者が、ひとりでも敵の権力下に陥ることをお許しにならない。彼は次のように約束しておられる。「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」（イザヤ書 27:5）。「あなたがもし、……わたしの務を守るならば、……ここに立っている者どもの中に行き来することを得させる」というヨシュアに与えられた約束は、すべての者に与えられている（ゼカリヤ書 3:7）。神の天使は、この世界においてさえ、彼らの両側を歩く。そして彼らは、ついには、神のみ座を取りまく天使たちの中に立つのである。

ヨシュアとみ使いに関するゼカリヤの幻は、贖罪の大いなる日の、最後の場面における神の民の経験に、特別に当てはまる。その時、残りの教会は大きな試練と苦悩に陥る。神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持っている者に対して、龍とその軍勢は激しい怒りを発する。サタンは世界を自分の家来だと思っている。彼は多くの自称キリスト者たちさえ支配してしまった。しかしここに、小さい群れが彼の主権に抵抗しているのである。もしサタンが、彼らを地上から一掃することができるならば、彼の勝利は完璧となる。サタンは異教諸国を動かしてイスラエルを滅ぼそうとしたように、近い将来、地上の邪悪な国々を扇動して、神の民を滅ぼそうとするのである。人々は神の律法に背いて、人間の布告に服従するように要求されるのである。……

神の民が神の前で心を悩まし、心が純潔になることを嘆願するときに、「彼の汚れた衣を脱がせなさい」という命令が出される。そして、「見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう」という励ましの言葉が語られる（ゼカリヤ書 3:4）。キリストの義というしみのない衣が、試練と誘惑に耐えた忠実な神の民に着せられる。さげすまれた残りの民は栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることはないのである。彼らの名は小羊の命の書に書き留められて、各時代の忠実な者の中に加えられるのである。彼らは、欺瞞者の策略に抵抗した。彼らは龍がほえても、忠誠を失わなかった。今や彼らは、誘惑者の計略から、永遠に安全なものとなった。彼らの罪は、罪の創始者の上に移された。「清い帽子」が彼らの頭にかぶせられた。（国と指導者下巻 192-196）

今日のための教訓

「あなたに祭服を着せよう」(ゼカリヤ 3:4)

「キリストの義の衣をまとうすべての者が、選ばれた、忠実な、真実な者として、キリストの前に立つようになる。」(彼を掲げよ 234)

推奨文献：国と指導者下巻 188-194

日曜日

11月20日

1. 悲観的な状況

- a. バビロン捕囚の後、自分たちの故郷に戻ったイスラエルの小さな残りの民にとって、何が主な失望の原因でしたか(ゼカリヤ 1:12)。

「〔イスラエルの〕民は目覚めて自分たちの罪深さを認め、自らを神のみ前にへりくだらせ、真の悔い改めを持って神に立ち返った。そのとき、主はご自分が彼らを捕囚から救出し、ご自分の恩寵へ回復すると宣言され、彼らに励ましのメッセージをお与えになった。サタンが断固として阻止しようとしたのはこれであった。イスラエルの残りの民はすでに自分たち自身の地に戻っていた。そこでサタンは自分の代理人である異教の国々を動かして、彼らを徹底的に滅ぼそうとしていた。」(教会への証 5巻 468)

- b. 主が彼らの苦悩をご覧になったとき、自分たちの父祖の過ちを繰り返すことがないようにと、どのように預言者を通して彼らに警告なさいましたか(ゼカリヤ 1:4-6)。

「神殿の建設者たちが着々と工事を進めたことは、悪の軍勢を大いに当惑させ、驚かせた。サタンは神の民の前に、彼らの品性の不完全なことを示して、彼らを弱め、失望させようとさらに努力することにした。もし、罪を犯したために長い間苦しんだ人々に、もう一度神の戒めを無視するよう説き伏せることができるならば、彼らはふたたび罪の奴隷となるのであった。」(国と指導者下巻 188)

2. 主からの励まし

- a. 主は、どのように、預言的なメッセージをもって、小さな残りの民を励まされましたか（ゼカリヤ 2:10, 11）。主は、将来のどの出来事に言及なさいましたか（イザヤ 60:1-5; 黙示録 21:24-26）。
- b. 主は、どの幻をもって、彼らの指導者であるゼルバベルを励まされましたか（ゼカリヤ 4:1-6, 9）。
- c. 主は、大祭司ヨシュアと民が必要としていた霊的な保証を与えることによって、どのように彼らを励まそうとなさいましたか（ゼカリヤ 3:1, 2）。

「預言者ゼカリヤは幻の中で、『大祭司ヨシュア』が『汚れた衣を着て』主のみ使いの前に立ち、苦しんでいる民のために、神のあわれみを乞い求めているのを見た（ゼカリヤ 3:1,3）。彼が神の約束の成就を嘆願しているときに、サタンは大胆に立ち上がって彼に抵抗する。サタンは、イスラエルが神の恵みに回復されるべきでない理由として、彼らの罪を指摘するのである。サタンは彼らを自分の餌食であると主張し、彼の手に引き渡すことを要求する。」（国と指導者下巻 189）

- d. 大祭司ヨシュアがサタンの告発の前で唯一できたことは何でしたか。わたしたちも同様の苦境に立っているため、唯一の希望は何ですか（箴言 28:13）。

「大祭司はサタンの告発に対して、自分も自分の民も弁護することができない。大祭司は、イスラエルに罪がないとは主張しないのである。彼は民の罪を象徴している汚れた衣を着て、民の罪を彼が負っていることをあらわし、み使いの前に立って彼らの民を告白し、その悔い改めと謙遜を指し示して罪を赦される贖い主のあわれみによりすがっているのである。彼は信仰をもって、神の約束の成就を願い求める。」（同上 189）

3. わたしたちの大きな必要：祭服（衣をかえること）

- a. 民の代表であるヨシュアは、（イエスであられた）御使の前で、どのように立っていましたか（ゼカリヤ 3:3）。わたしたちは主の前に自分自身の義の衣を着て、どのように立ちますか（イザヤ 64:6; 黙示録 3:17）。

「今日人間は神のみ前に汚れた衣を着て立っている。彼らの義はすべて『汚れた衣』である（イザヤ 64:6）。サタンは弱さの証拠として彼らの不完全さを指摘し、自分の熟練した告発の力を彼らに対して用いる。彼は神の奉仕をしていると主張する人々の間違いをあざけて指し示す。彼らはサタンに欺かれたので、彼は彼らを滅ぼす許可を請う。

しかし、彼らはキリストにより頼み、キリストは彼らをお捨てにならないのである。」（この日を神と共に 226）

- b. ヨシュアはどのように主のみ前に仕えるのにふさわしい者となりましたか（ゼカリヤ 3:4, 5）。わたしたちは是認される前に、何をしなければなりませんか（黙示録 3:18, 19）。

「ヨシュアのとりなしが聞かれたときに、『彼の汚れた衣を脱がせなさい』という命令が発せられる。そして、み使いはヨシュアに向かって、『見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう』と言った。「そこで清い帽子を頭にかぶらせ、衣を彼に着せた」（ゼカリヤ 3:4,5）。彼自身の罪と彼の民の罪は赦された。イスラエルは『祭服』、彼らのものと認められたキリストの義を着せられた。ヨシュアの頭にかぶせられた帽子は祭司たちがかぶるもので、『主に聖なる者』という印がついていた（出エジプト記 28:36）。それは、彼には前にどんな罪があったとしても、今は神の聖所の中で、神に奉仕する資格があることを示していた。」（国と指導者下巻 190）

- c. 祭司職の尊厳を彼に着せられた後に、キリストはヨシュアに何を宣言なさいましたか。わたしたちは何をすべきですか（ゼカリヤ 3:7）。

「彼がもし従順であるならば、彼は神殿とそのすべての務めの管理者、または支配者として尊敬されるのであった。彼はこの地上においてさえ、保護天使の間を歩くのであった。そして彼は、ついには神のみ座の回りの、栄化された群衆に加わるのであった。」（同上）

4. 試練の時

a. ゼカリヤの幻は、今日どのように当てはまりますか (黙示録 12:10 下旬)。

「ヨシュアとみ使いに関するゼカリヤの幻は、贖罪の大いなる日の、最後の場面における神の民の経験に、特別に当てはまる。その時、残りの教会は大きな試練と苦悩に陥る。神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持っている者に対して、龍とその軍勢は激しい怒りを発する。サタンは世界を自分の家来だと思っている。彼は多くの自称キリスト者たちさえ支配してしまった。しかしここに、小さい群れが彼の主権に抵抗しているのである。……

神に忠実に服従する人々は、脅かされ、攻撃され、追放される。彼らは、『両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られ』、殺されるであろう (ルカ 21:16)。神のあわれみだけが、彼らの唯一の希望である。祈りが彼らの唯一の防御である。ヨシュアがみ使いの前で嘆願したように、残りの教会は、心へりくだり揺るがぬ信仰をいだいて、彼らの助け主イエスによって、赦しと救出を嘆願するのである。」(国と指導者下巻 193)

b. 恵みの戸がまだ開かれている間に、何を嘆願すべきですか (詩篇 51:1, 7, 10; ヨエル 2:16, 17)。どの条件に基づいてのみ、わたしたちの助け主はわたしたちを擁護することができますか。

「しかしキリストに従った人々は、罪を犯しはしたけれども、全的に降伏してサタンの手下たちに支配されてはいなかったのである。彼らはその罪を悔い改めて、謙遜と悔恨の念をもって主を求めた。そして助け主であられるイエスは、彼らのために嘆願されるのである。彼らの忘恩によって最もひどい取り扱いを受けられたかた、また彼らの罪を知るとともに、その悔い改めをも知っておられるかたが言われる。『サタンよ、主はあなたを責めるのだ。わたしはこの人々のために、わたしの生命を与えた。彼らは、わたしのたなごころに彫り刻まれている。彼らの品性に不完全なところがあろう。彼らは、努力して失敗したこともあろう。しかし彼らは悔い改めた。そしてわたしは、彼らを赦し受け入れたのである』。

サタンの攻撃は強烈で、その欺瞞は陰険である。しかし主の目は、神の民を見ている。彼らの苦難ははなはだしく、炉の火は今にも彼らを焼きつくすかのように思われる。しかしイエスは、彼らを火で練られた金のように取り出される。彼らは、世俗的なところが取り去られて、キリストのかたちを完全に表すようになるのである。」(同上 194,195)

5. 一日のうちに取り去られた悪

- a. 調査審判の時に、どのように悔い改めたイスラエルの告白した罪が「一日のうちに」取り除かれますか（ゼカリヤ 3:9 下句；使徒行伝 3:19）。

「神の民が神の前で心を悩まし、心が純潔になることを嘆願するときに、『彼の汚れた衣を脱がせなさい』という命令が出される（ゼカリヤ 3:4）。」（国と指導者下巻 196）

- b. 神の忠実なしもべたちの罪が除去された後、彼らにはどのようなしるしが押されますか。また、わたしたちはどのようにしてその時のために準備ができますか（エゼキエル 9:4；ヨハネ第一 3:2, 3）。

「今こそ、わたしたちの心が純潔で聖なるものとなるべき時である。わたしたちには、キリストが来臨なさるときに品性に変化が起こるという約束はない。もしわたしたちが義のうちに主に供え物を捧げなければ、思いと言葉と行いにある罪深いものをすべて捨て去らなければならない。……

わたしたちに必要なのは心の純潔である。そして神はご自分の恵みの無償の賜物として、これをわたしたちにお与えになることができる。多くの人々は自分たちの欠点のある品性を環境のせいにする。彼らは『もし事態が違ってさえいれば、わたしはもっとはるかによい者になれます。しかし、このことがわたしを苦しめますし、あのことがわたしを悩ませます。それがわたしはもっとよいクリスチャンになれない理由なのです』と言う。しかし、これは欺瞞である。神にはあなたがいるその場所で神に仕えることができるようにして下さる神の恵みがあるのであり、このような言い訳はこのお方にとって何の意味もない。自分の失敗を環境のせいにしてはならない。主はあなたがいるところをご存じであり、このお方はあなたが信心のために役に立つこれらの事柄を実行するよう望んでおられる。』（ユース・インストラクター 1896年1月9日）

個人的な復習問題

1. ヨシュア、ゼカリヤ、ゼルバベルの働きを描写しなさい。
2. 主はゼルバベルと民にどのような励ましを送られましたか。
3. （キリストであられた）御使は、どのように告発者の口を封じましたか。
4. 神はヨシュアの告白と祈りにどのようにお答えになりましたか
5. ヨシュアと御使の経験は、今日わたしたちにとって実物教訓です。説明しなさい。

第一安息日献金

ブラジル、ブラジリアにある
ルネッサンス学校のために



教育センターであるルネッサンスは、1995年2月に開校しました。それはブラジルの首都、ブラジリアにある北ブラジル連合の本部に隣接しています。この都市には非常に多くの私立学校があり、さらにすべての人に無料で学校教育を提供している

公立学校制度があるため、当初より克服しなければならない資金的に大きな課題がありました。神は学校のごく当初よりわたしたちの助け手であられ、すでに設立の第二年目には、相当数の生徒がいました。彼らの両親の大部分はわたしたちと同じ信仰ではありませんが、わたしたちのところへ来て、クリスチャンの原則に重きをおいた教育という違った手法を選びました。

現在のところ、わたしたちは一番若い子たちから9年生までを教えています。わたしたちの計画は、発展させて、高校生レベルと同等なカリキュラムを持つことです。その趣旨で新しい教室を作るなどの努力がなされてきましたが、まだわたしたちの前に他の課題があります。学校は次のような増築が必要とされています。

- いつも使用している地域が網羅される必要がある
- 障害児が容易に来れるためのエレベーター
- 科学実験室

最後の二つは、教育省からの政府要求です。これらすべての他、わたしたちはまた教育の質を向上させなければなりません。

わたしたちが高い水準のクリスチャン教育を提供できさえすれば、彼らに最高の教育を施すがゆえに、わたしたちの学校にいる子供たちや青年たちを引き留めておくことができます。「わたしたちの働きは改革的である。そしてわたしたちの教育施設においてなされる働きの卓越さを通して、民の注意を減びつつある人々を救うための最後の大きいなる努力へ向けさせるのが、神のご目的である。」(教会への証6巻126強調付加)。

わたしたちは世界中の兄弟、姉妹、友人たちに、ブラジル領域のまさに中心部にあるこの学校とその必要のために、惜しみない献金をぜひお願いいたします。

- ブラジリアから皆さんの兄弟姉妹より -

「自分の罪をぬぐい去っていただくために」

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改め……なさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。」(使徒行伝 3:19, 20)

「調査審判と 罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。」
(各時代の大争闘下巻 218)

推奨文献：国と指導者下巻 195-197

各時代の争闘下巻 222-226

日曜日

11月27日

1. 告白され、許され、移された罪

- a. 古い契約の下で、罪が日ごとの奉仕で許されたとき(レビ 4:20)、それらは同時に消されましたか(ヘブル 10:1-4)。
- b. 新しい契約の下で、わたしたちの贖いの代価は、十字架で支払われ(ペテロ第一 1:18, 19; ヘブル 9:11, 12)、日ごとの祈りに応えて、わたしたちの罪は許されました(マタイ 6:12)。それらが除去されるのはいつですか(使徒行伝 3:19)。
- c. 大祭司が一年に一度至聖所に入ったように、キリストは何の目的で「世の終りに、一度だけ」、「ご自身(の) いけにえ」の功績によって、第二の幕の内に入られるのですか(ヘブル 9:23-26)。

「型としての儀式においては、大祭司がイスラエルのために贖罪をなしている間、すべての者は、……身を悩まさなければならなかった。それと同様に、自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願うものはみな、今、……罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に身を悩まさなければならぬ。」(各時代の争闘下巻 224)

2. 告白され、許され、移された罪(続)

- a. 古い契約の下で、罪は、どのように罪人から聖所に移されましたか(レビ 4:16-18, 33-35; ヘブル 13:11)。

「日ごとの務めのうちで最も重要な部分は、個人個人のために行なわれた務めであった。悔い改めた罪人は供え物を幕屋の戸口にたずさえ、このいけにえに手を置いて罪を告白し、こうして象徴的にその罪を彼自身から無垢の犠牲の上に移し変えた。それから動物は、彼の手で殺された。祭司は、血を聖所に運んで、この罪人の犯した律法を入れた箱の前方にたれているとぼりの前に注いだ。この儀式によって、罪は血によって象徴的に聖所に移された。」(人類のあけぼの上巻 418)

- b. 新しい契約の下で、どのように罪は個人から天の聖所へ移されますか(ヨハネ第一 1:9; ヘブル 9:11, 12, 28; 10:12)。

「古代において、民の罪が、信仰によって罪祭の上におかれ、そしてその血によって、象徴的に地上の聖所に移されたように、新しい契約においては、悔い改めた者の罪は、信仰によってキリストの上におかれ、そして実際に天の聖所に移されるのである。」(各時代の大争闘下巻 136)

- c. 天の聖所の香炉と香壇によって、何が表されていますか(黙示録 8:3, 4; ヘブル 4:14-16)。

「今日、キリストに来るすべての人は、このお方の功績が、自分たちの罪を悔い改め、許しと憐れみと恵みを受ける人々の祈りに混ぜ合わされる香であることを覚えていなければならない。」(パイブル・コメント [E.G. 柯イトメント] 6巻 1078)

「今日、〔イエス〕はあわれみの座に立って、その助けを求める人々の祈りを神にささげておられる。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 61)

「〔キリスト〕のささげ物は完全なものである。そして、主は、わたしたちをとりなすお方として、神の前で、ご自身の汚れなき功績と神の民の祈りと告白と感謝を盛った香炉を持って、ご自分が制定なさったお勤めをしておられる。これらは、キリストの義の香りとともに、芳しい香りとなって神の前に上る。このようなささげ物はことごとく神に受けいられる。あらゆる罪はゆるされておられるのである。」(キリストの実物教訓 136)

3. 完全な調和のとれた双子の姉妹

- a. 贖いの計画は、どの基本的な二つの原則の上に立てられていますか（詩篇 85:9-11; 89:14）。神の義の明白な定義は、どこにありますか（詩篇 119:142, 172; ローマ 8:4）。

「正義にはつねにかたわらに立つべき双子がいる。それは、あわれみと愛である。」
 (パウル・コメンリ [E.G. 柯什コメン] 3 卷 1149)

- b. 古い契約の下では、犠牲の供え物は、象徴的に（ヘブル 10:1）至聖所の幕の後ろにある律法を満足させるためのものでした（ヘブル 9:3, 4）。律法は犯した者に何を要求しますか。またそれはわたしたちに何を考えさせますか（ローマ 6:23; 7:8-11; コリント第二 3:6）。

「人は神の律法の違反のために、裏切り者、反逆者として死刑宣告の下にいる。そのために、人間の身代わりは、犯罪者として死ななければならない。なぜなら、彼はその神聖な魂の上に積み上げられた彼らのすべての罪をもった裏切り者の代わりだからである。イエスが破られた律法の要求に完全にこたえるためには、死ぬだけでは十分ではなかった。屈辱の死を経なければならなかった。預言者は、世にこのお方の言葉を伝えている、『恥とつばきとを避けるために、顔をかくさなかった』（イザヤ 50:6）。

このことを考えるとき、人に賞賛がひとかけらでもあるだろうか。彼らがキリストの生涯と苦しみと屈辱をたどるとき、自分たちの高ぶった頭を、あたかも何の試練も恥も屈辱も負うべきではないかのようにもたげることができるであろうか。わたしはキリストに従う者たちに言う、カルバリーを見なさい、そしてあなたの自己尊重の考えに恥じ入りなさい。天の大能者のこのすべての屈辱は、罪深い有罪な人間のためであった。このお方はご自分のへりくだりのうちに低くさらに低く下りて来られ、これ以上下りるべき低い深みがないところまで来られた。それは人間をその道徳的な汚れから引き上げるためであった。これはみな最高位のために苦闘している一人間からほめられ、人から高められるために苦闘している一あなたのためであった。あなたが当然受けるべきだと自分で考えている敬意や尊重を人の思いから受け損なうのではないかと心配しているあなた、それはキリストに似ているであろうか?」（同上 5 卷 1127, 1128）

- c. 象徴的に身代わりの血を通して（レビ 17:11）、犯された律法の要求が満たされたとき、神のみ前に悔い改めた罪人の新しい立場は何ですか（レビ 4:20; 5:17, 18; 民数記 15:22-26）。

4. 憐れみと正義

- a. 新しい契約の下で、天の聖所の至聖所にある神の律法(黙示録 11:19; ヘブル 9:4; 8:5; 黙示録 15:5) の要求はなお満たされなければならないため、キリストがわたしの罪のために死なねなければならなかったことをどのように証明することができますか(ローマ 4:15; 7:7; コリント第一 15:56; ヤコブ 2:8-11)。

「キリストがその死によって天父の律法を廃したという主張には、なんの根拠もない。もしも律法を変えたり、廃止したりすることができるのであれば、人間を罪の刑罰から救うためにキリストが死なれる必要はなかった。キリストの死は、律法を廃止するどころか、それが不変のものだということを証明しているのである。」(各時代の争闘下巻 193)

- b. わたしたちを義認し(テトス 3:7)、救う(エペソ 2:8) 神の恵みは、だれにとっても律法を犯し続ける許可証ではなく(ローマ 6:1, 2; ヨハネ 8:10, 11)、悔い改めた罪人にとって全能者に従順をお捧げする力であるということ、どのように証明することができますか(ローマ 6:14; テトス 2:11, 12)。
- c. しかし、このお方のみ旨を知っているすべての人は、どの標準によって裁かれますか(伝道の書 12:13, 14; ヤコブ 2:8-12)。

「神の律法は霊的なものである。それはわたしたちの最も内密な思想や目的や動機をも認知する。判断、意志、愛情はこの規則によって支配されなければならない。その原則は神と人への愛を要求する。この愛がなければ、外面的な遵法は受け入れられない。この律法はクリスチャン品性の標準である。忠実な鏡のように、それは人の子らに自分たちの品性の欠点を明らかにする。それは誘惑に対して彼らを用意深くさせる。それは彼らが判断において厳密で霊的な識別力において正確であるように教える。神の律法は聖であって、正しく、かつ善なるものである。わたしたちの生活がこの標準に調和しているとき、わたしたちは幸福である。」(サイブ・オブ・ザ・タイムズ 1881年6月9日)

- d. 神の律法の知識に関する限り、二種類の人々の間で、裁きにおいてどのような区別がなされますか(ローマ 2:12)。

5. 裁きにおいて除去される罪

- a. 条件付きで許されたにもかかわらず、なぜわたしたちの罪は天の記録に書きこまなければならないのですか。なぜそれらは、同時に許され、また除去されることができないのですか（エゼキエル 18:24; マタイ 18:23-35）。
- b. キリストはわたしたちを罪から自由にするために来られたにもかかわらず、すべての人が死に、また神の「さばき」の座の前に立つことが「定まっています」（ヘブル 9:26, 27）。使徒パウロはどのようにこのことを他の言葉で繰り返していますか（テモテ第一 5:24）。
- c. どの大事件の前に、またどの条件に基づいて、わたしたちの罪は裁きにおいて除去されますか（イザヤ 43:25; 使徒行伝 3:19, 20）。

「審判において、記録の書が開かれるときに、イエスを信じたすべての人の生涯が神の前で調べられる。……

真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。」（各時代の争闘下巻 215,216）

個人的な復習問題

1. 古い契約の下で、どのように罪は地上の聖所に移されましたか。新しい契約の下で、どのように罪は天の聖所に移されますか。
2. 天の香炉と香壇には、どのような意味がありますか。
3. 神の恵みは、だれかが罪のうちに続けるための許可証ではないとどのように証明できますか。
4. わたしたちの罪が許される時、それが同時にキャンセルされるのではないということが、どのようにわかりますか。
5. わたしたちの罪は、さばきの間に、いつ、どのような条件に基づいて除去されますか。

量の足りないことがあらわれた

実のないいちじくの木についての救い主の非難は、クリスチャンだと主張しながら、盲目的な不信の中にい続けるすべての人にとって警告である。こうして各時代にわたり、主は光を拒むことについての危険をお教えになった。キリストはすべての人のために働き、招いておられる。今日、このお方はすべての心の戸をたたいておられる。このお方はわたしたちについて、あなたは人の戒めを教理として教え、わたしをむなしく礼拝するのか、と仰せにならなければならないであろうか。

いちじくの木に向かって語られた言葉は、どんなにうぬぼれていようとも、生活に実のないすべての人に当てはまる。木はいかにも繁栄しているように見えても、主はその生い茂った葉を、実り豊かな証拠としてはお受け取りにならない。木を唯一価値のあるものとする実を探されるこのお方の調査は綿密で厳しい。わたしたちの場合はどうであろうか。決して間違いを犯すことのないこのお方によってなされる調査に耐えることができるであろうか、あるいは、わたしたちはただ公言という葉しかないであろうか。公言は、霊的な不毛を覆い隠すにすぎないならば、無に等しい。

救い主が天の雲に乗って現れるときには、だれも救いを得るための別の機会を与えられることはない。すべての者が自分の決定を下したのである。この世の歴史が閉じる前に、証拠を受け入れようとする人々は、自分たちの思いから暗い幕が取り除かれる。天から下ってくる御使の栄光によって全世界が明るくされる時の間に、心はキリストを受け入れることを通して清められる。

あらゆる種類の欺瞞が実行される時は間近に迫っている。キリストは「にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来る」と言われる。彼らは、美しい言葉を語るが、いつもどのように自ら利益を得ることができるかを油断なく見張っている。彼らは自己でいっぱいであり、神のご目的と逆に働く。「あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう」と救い主は宣言なさる。「良い木が悪い実をならせることはないし、悪い木が良い実をならせることはできない」。悔い改めと信仰のほかには、不純な心を純粋にするものはない。

神はすべての人を聖所のはかりで量っておられる。一方にはこのお方の完全で不変の律法が、完全な服従を要求して、置かれている。もし、もう一方に忘却や、反逆や、自己を喜ばせる年月が、悔い改めも告白も正しいことをなそうとする努力もなく置かれているならば、神は「あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた」と言われる。(エズ・インストラクター 1902年7月31日)

贖罪の日の本体

「二千三百の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」
(ダニエル 8:14 英語訳)

「ダニエル 8:14 の預言〔は〕……至聖所におけるキリストの務め、すなわち調査
審判をさす」(各時代の大争闘下巻 139)

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 129-137

日曜日

12月4日

1. 天の聖所もまた清められなければならない
 - a. なぜ大祭司は年に一度至聖所に入らなければならなかったのですか(ヘブル 9:7, 23; レビ 16:16)。この日は何という名がついていましたか。

「キリストの犠牲と祭司職の影であった、型としての制度において、聖所の清めは、年ごとの奉仕において大祭司が行なう最後の務めであった。それは、贖罪の最後の働き、すなわち、イスラエルから罪を取り除くことであった。」(各時代の大争闘下巻 46)

- b. いつ民は「主の前に、もろもろの罪から清められる」とみなされましたか一彼らが日ごとの奉仕で「許され」たときですか(レビ 4:20, 26, 31, 35)、あるいは贖罪の日に彼らの罪が取り除かれた後だけですか(レビ 16:29, 30)。
 - c. 何が絶えず天の聖所を汚していましたか(テモテ第一 5:24)。「天にあるもの」、すなわち天の聖所は、なぜ贖罪の本体の日に、「更にすぐれたいけにえ」で清められなければならないのですか(ヘブル 9:23 下旬)。天にある聖所の清めのために要求された「更にすぐれたいけにえ」とは、どういう意味ですか(ヘブル 9:12, 26)。

2. 定められた時

- a. 神のご計画において、天の聖所の清めのためにどの時が定められていましたか(ダニエル 8:14)。聖書の預言的な日を測る方法に従うと(エゼキエル 4:6)、2300日はどの期間を表していますか。この預言をアドベンチストの先駆者たちはどのように理解しましたか。

「2300日は、紀元前457年の秋に、エルサレムを建て直せというアルタシャスタの命令が実施された時に始まることになっていた。これを起算点にすれば、ダニエル書9:25～27にある、この期間についての説明の中で預言されたすべての事件の適用が、完全に調和する。69週、すなわち2300年の最初の483年がたつと、油を注がれた者、メシヤが現われる。そして、キリストは、紀元27年バプテスマを受け聖霊の油を注がれて、この預言は正確に成就した。70週めの半ばにメシヤは絶たれるのであった。キリストは、バプテスマから3年半の後、紀元31年の春に、十字架につけられた。70週、すなわち490年は、特にユダヤ人にかかわるものであった。この期間の終了後、ユダヤ人は、キリストの弟子たちを迫害することによって、キリストを決定的に拒否し、使徒たちは、紀元34年、異邦人へと向かった。こうして2300年の最初の490年が終わり、あと1810年が残る。紀元34年から1810年たつと、1844年である。「そして聖所は清められてその正しい状態に復すると天使は言った(ダニエル8:14)。」(各時代の争闘下巻120,121)

- b. なぜダニエル8:14の預言(2300の預言的な日にち、もしくは字義通りの2300年) —その始めの部分がダニエル9:24-27に天使ガブリエルによって説明された預言—は、天の聖所を指していることに間違いがないのですか。

「キリストの死によって、型としての奉仕は終わった。天にある『真の幕屋』は、新しい契約の聖所である。そして、ダニエル書8:14の預言は、この時代に成就されるのであるから、ここで言う聖所は、新しい契約の聖所であるに違いない。2300日が1844年に終結したときに、この地上には幾世紀もの間、聖所はなかった。こうして、『2300の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』という預言は、疑いもなく天の聖所をさすのである。」(同上130)

3. 開かれた至聖所

- a. ヨハネは、紀元 31 年に聖所の第一の部屋が開かれたとき、何を見ましたか（黙示録 4:1, 2, 5）。そして、彼は 1844 年に第二の部屋が開かれたときに、何を見ましたか（黙示録 11:19）。

「使徒ヨハネは、幻のなかで、天にある神の宮を見ることを許されたとき、『七つのともし火が、御座の前で燃えてい』るのを見た（黙示録 4:5）。彼は、一人の天使が、『金の香炉を手に持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであった』のを見た（黙示録 8:3）。ここで、預言者は、天の聖所の第一の部屋を見ることを許された。そして、そこに、地上の聖所の金の燭台と香壇によって表わされていたところの、『七つのともし火』と『金の祭壇』を見た。再び、『天にある神の聖所が開けて』（黙示録 11:19）、彼は、奥の幕の中の、至聖所を見た。彼はここで、『契約の箱』を見た。それは、神の律法を入れるためにモーセが作った聖なる箱によって表わされていたものであった。」（各時代の大争闘下巻 127）

- b. 1844 年に、キリストの奉仕にどのような変化がありましたか（黙示録 3:7, 8）。裁きの働きのためにどこにみ座がすえられましたか（ダニエル 7:9, 10）。

「十戒の戒めを納めた箱のある天の至聖所の門が開かれた……この門は、1844 年に、イエスの聖所における奉仕が終わったときに開かれた。そのときイエスは立ち上がって、聖所の門を閉じ、至聖所の門を開き、第二の幕の中に入られた。今彼は箱のそばに立っておられる。そして、今、イスラエルの人々の信仰はここに向けられている。」（初代文集 105,106）。

- c. 神は、預言者イザヤを通して、どのように 1844 年に始まったこの偉大な日をあらかじめ述べておられましたか（イザヤ 22:20-22）。贖罪が進められている間、神はわたしたちに魂を悩ませるようにと召しておられます。しかし、悔いた心で主に向き直る代わりに、多くの人々は何をしていますか（イザヤ 22:12-14；黙示録 3:14-17）。
- d. あまり長くは続きませんが、どのような機会が、なおわたしたちの前に開かれていますか（黙示録 3:18-20；ペテロ第二 3:9, 14）。

4. 記録から罪が取り除かれる

- a. わたしたちの大祭司キリストは、わたしたちの心、また聖所の記録から、何を「除去」し、もしくは「捨て去」り、もしくは取り除かなければなりませんか（イザヤ 43:25）。

「〔地上の聖所の清め〕は、贖罪の最後の働き、すなわち、イスラエルから罪を取り除くことであった。それは、天の記録に記されている神の民の罪を除く、あるいは消し去るという、天の大祭司の奉仕における最後の働きを予表していた。この務めには、調査の働き、審判の働きが含まれていた。そして、それは、キリストが力と大きな栄光のうちに天の雲に乗って来られる直前に起こる。なぜならば、彼が来られる時には、すべての人の運命は決定しているからである。」（各時代の大争闘下巻 46）

- b. なぜわたしたちの罪を「除去する」ことは、わたしたちに希望と勇気をもたらすのですか（イザヤ 44:22, 23）。

「神は、有限な人間が互いを取り扱うようには、わたしたちを取り扱われぬ。このお方の思いは、憐れみ、愛、最も優しい同情の思いである。『主は豊かにゆるしを与えられる』。このお方は『わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い、あなたの罪を霧のように消した』といわれる（イザヤ 44:22）。わたしたちは主の言葉に信頼し、快活な従順によって、自分たちが主の許しの愛を感謝していることを証しよう。

兄弟姉妹方、上を見なさい、試され、誘惑され、失望しているあなたは、上を見なさい。弱り、躊躇している、罪に圧倒された魂が、臆病になることのないようにしよう。わたしたちの時代にまで及んでいる神のみ約束は、もしあなたが登り続けるならば、天に到達できることを、あなたに保証している。」（ビュー・アノド・ハルト 1885年2月17日）

- c. キリストがわたしたちの大祭司としてのご自分の奉仕をおやめになる調査審判の最後のときに、キリストはどのような宣言をなさいますか（黙示録 22:11, 12）。

「調査審判の働きが終わるとき、すべての人の運命は、生か死かに決定されてしまっている。恩恵期間は、主が天の雲に乗って来られる少し前に終了する。」（各時代の争闘下巻 225）

5. 取り消すことのできない宣言

- a. キリストの仲保がなされるとき、御使は香炉をどうしますか（黙示録 8:4, 5）。この象徴的な行為は何を意味していますか。また悔い改める機会がありますか。

「わたしは天使たちが、天をあちこちと飛びまわっているのを見た。墨入れを持ったひとりの天使が、地上から帰ってきて、自分の働きの終わったことを報告した。そこで聖徒の数がかぞえられて封印された。すると、それまで十誡の納められている箱の前で奉仕しておられたイエスが、香炉を投げ捨てられるのをわたしは見た。彼は両手をあげて、大きな声で、『事はすでに成った』と言われた。イエスが『不義な者はさらに不義を行い、汚れた

者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ』と厳粛に宣告されると、天使の万軍は冠をぬいだ（黙示録 22:11）。」（初代文集 452）

- b. まだ恩恵期間が開かれている間に、どの宣告がわたしたちの注意を喚起すべきですか。またなぜですか（ダニエル 5:27）。わたしたちはどの警告を考えるべきですか（マルコ 13:35-37）。

個人的な復習問題

1. 古い契約の下では、いつ民は「主の前に、もろもろの〔彼らの〕罪が清められる」と宣言されましたか一日ごとの奉仕のときでしたか、あるいは年ごとの奉仕のときでしたか。
2. 天の聖所は何から清められなければなりませんか。
3. 再臨信徒の先駆者たちは、調査審判が聖所の清め一罪の記録の除去一であることを悟りました。この働きはいつ始まりましたか。
4. わたしたちの罪が記録から取り除かれ（除去され）ると、どの宣言がなされますか。次に何が起こりますか。キリストが来られるとき、このお方の血の功績は、なお罪を洗い去ることが出来ますか。ヘブル 9:28 を読みなさい。
5. どのイエスの警告が、特にこの終わりの時代に当てはまりますか。

本体と型の対比

「もうしばらくすれば、きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない。」(ヘブル 10:37)

「裁きの厳粛な光景、贖罪の大いなる日は、つねに民の目の前におかれ、彼らの良心に真剣さと力を強く促すべきである。」(教会への証 5 卷 421)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 405-423

日曜日

12月11日

1. 型と象徴における贖罪の日

- a. 贖罪の大いなる日に、どの手続きが、聖所と民から告白された罪を除去することを象徴していましたか (レビ 16:7-10)。
- b. 大祭司は、やぎの血で何をしましたか (レビ 16:15, 16)。
- c. どの行為の後で、民と聖所のための年ごとの贖罪(和解)は、「なしとげられた」とみなされましたか—犠牲のやぎが殺された後ですか、あるいはその血がつけられた後ですか (レビ 16:15-20)。

「古代において、民の罪が、信仰によって罪祭の上におかれ、そしてその血によって、象徴的に地上の聖所に移されたように、新しい契約においては、悔い改めた者の罪は、信仰によってキリストの上におかれ、そして実際に天の聖所に移されるのである。そして、地上の聖所の型としての清めが、それを汚してきた罪を取り除くことによって成し遂げられたように、天の聖所の実際の清めも、そこに記録されている罪を取り除くことによって、すなわち消し去ることによって、成し遂げられねばならない。」(各時代の争闘下巻 136)

2. 「なし終えたとき……」

- a. 地上の聖所の清めは、天の聖所の清めについて、何を教えますか（ダニエル 8:14；ヘブル 8:3-6）。

「この清めは、型としての儀式においても実際の儀式においても、血によって成し遂げられなければならない。前者は、動物の血によって行なわれ、後者は、キリストの血によって行なわれる。」（各時代の争闘下巻 131）

- b. これらの象徴は、実際的な方法において、どのようにわたしたちの生活に影響を与えることができますか。

「キリストの血は効果があるが、それは絶えず塗られている必要がある。神はご自分の僕たちが、ご自分の栄光のためにお委ねになった手段を用いるよう望むだけでなく、彼らをご自分のみ事業に自ら献身することを願っておられる。わが兄弟よ、もしあなたが利己的になり、あなたが喜んでこのお方の奉仕に捧げるべきものを主に差し出さずにいるなら、そのときあなたには徹底的に注がれた血を塗られ、あなたとあなたの持ち物をすべて神にお捧げする必要があります。

大いに尊敬されているわが兄弟よ、あなたは神があなたに要求しておられるほど、神のみ働きに対して熱心な無私の献身を捧げてこなかった。あなたは自分の注意を一時的な事柄に向けてきた。あなたは自ら利益を得ることができるように、自分の思いを事業のために訓練してきた。しかし、神はあなたをご自分のみ働きのために形づくり訓練できるために、もっとご自分との緊密な一致に入るとあなたを召しておられる。昔のイスラエルに対して、汚れたままでいて自らを清めることを拒む人は、会衆のうちから絶たれなければならないという厳粛な声明がなされた。これはわたしたちにとって特に意味がある。もし昔、汚れを清めるために血の注ぎが必要であったとすれば、終わりの時代の危険の中で生存し、サタンの誘惑にさらされている人々にとって、キリストの血が日ごとに自分たちの心に塗られることは、どれほど重要不可欠なことであろう。……

あなたの無気力から目覚めて、世俗の事柄のむなしい偶像礼拝を離れ、熱心にあなたの不死の嗣業の権利を獲得しなさい。昼の間に働きなさい。現在の機会を放棄することによって、あなたの魂を危険にさらしてはならない。あなたの永遠の関心事を二次的な重要性を持つものとしてはならない。世を宗教より優先し、来る日も来る日もその富を得るために骨を折り、その一方では永遠の破綻の危険があなたを脅かすようなことをしてはならない。毎日、あなたは最終的な清算の日近づきつつあるのである。」（教会への証 4 巻 122, 123）

3. アザゼルのやぎ

- a. 幕屋と民の「あがないをなし終えた」後、大祭司は何をしましたか（レビ 16:20-22）。

「彼は、仲保者として、〔大祭司は〕罪を自ら負って、聖所から持ち出した。彼は、アザゼルのやぎの頭に手をおいて、すべての罪を告白し、こうして、象徴的に、自分からアザゼルのやぎへと罪を移した。それからやぎは、罪を背負って去り、そして罪は永遠に民から切り離されたものと見なされた。」（各時代の争闘下巻 134,135）

- b. 民の罪を聖所から庭へと担い、両手を生きたやぎの頭におくことによって、大祭司は罪と接触します。彼は汚れます。そこで、彼は何をしなればなりませんでしたか（レビ 16:24）。

- c. 同じ理由のために、やぎを去らせた人に何が要求されましたか（レビ 16:26）。

- d. アザゼルのやぎは、それと接触した人々を汚しましたが（レビ 16:26）、このやぎが傷がなく、世の罪を取り除く神の小羊を象徴することはありえますか（ヨハネ 1:29; ペテロ第一 1:19）。再臨信仰の先駆者たちは、何を見ることができましたか。

「罪祭が犠牲としてのキリストをさし、大祭司が仲保者としてのキリストを表わす一方、アザゼルのやぎは罪の張本人であるサタンを象徴していて、彼の上に、真に悔い改めた者たちの罪が最終的に置かれるのだ、ということもわかった。大祭司は、罪祭の血によって、聖所から罪を除去したときに、それをアザゼルのやぎの上においた。キリストが、彼の務めの最後に、ご自身の血によって、天の聖所からご自分の民の罪を除去されるとき、彼はそれをサタンの上におかれる。サタンは、審判の執行において、最終的な刑罰を負わねばならない。」（同上 137）

4. 贖罪の完成

- a. 最終的な贖罪の手続きは、罪のはなはだしい罪深さを、どのように表していましたか（レビ 16:10, 26）。これは何を象徴していますか。

「象徴的奉仕においても一年間の務めは聖所のきよめと、アザゼルのやぎの頭の上に罪を言いあらわす告白をもって閉じられた。

こうして、幕屋の務めと、のちにこれにとって代わった神殿の務めから、民はキリストの死とその務めに関する真理を日ごとに学び、そして、毎年一度、彼らの心はキリストとサタンとの間の大争闘の終結、宇宙が罪と罪人からきよめられる最終的なきよめに向けられたのであった。」（人類のあけぼの上巻 423）

「サタンは、罪の創始者であり、神のみ子の死を招いたあらゆる罪の直接の扇動者であるから、正義は、サタンが最後の刑罰を受けることを要求する。人間を贖い、宇宙を罪からきよめるキリストのみわざは、天の聖所から罪を取り除いて、これらの罪をサタンの上に置き、サタンが最後の刑罰を負うことによって閉じられる。」（同上）

- b. 贖罪の後に、キリストはどの方向に向かわれますか（ヘブル 9:28; 10:37）。

「型としての奉仕において、大祭司は、イスラエルのために贖罪をなし終えると、外に出て来て、会衆を祝福した。そのように、キリストも、仲保者としての働きを終えられると、『罪を負うためではなしに……救いを与える』ために来られて、彼を待っている人々に永遠の生命をお与えになる（ヘブル 9:28）。」（各時代の争闘下巻 218）

- c. キリストが二度目に、「罪を負うためではなしに（罪なしに：KJV）」来られるとパウロが言うとき、それは何を意味していますか（ヘブル 9:28）。（ヘブル 10:17, 18）。

「キリストもまた、多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた後、彼を待ち望んでいる人々に、罪を負うためではなしに二度目に現れて、救を与えられるのである。」（ヘブル 9:28, RSV）

5. 束縛されたアザゼルのやぎ

- a. キリストの来臨のときにこのお方を受け入れる準備のできていない人々に、特別な特権が与えられますか (マタイ 7:22, 23; ルカ 13:23-27; イザヤ 55:6)。準備のできていない人々にとって、なぜそれは遅すぎるのですか (マタイ 25:10-12)。
- b. (アザゼルのやぎに象徴された) サタンとその使は、滅ぼされる前に、どこへ隔離されますか。またどれくらいの間ですか (イザヤ 14:12-20; 24:20-22; エレミヤ 4:20-26; 黙示録 20:1-3)。

「ここが、サタンと悪天使たちが、千年の間住むところとなる。サタンは、地球に制限されているから、他世界に近づいて、決して墮落したことのない者たちを試み悩ますことはできない。こういう意味で、サタンはつながれるのである。彼が働きかけることのできる者が、だれもいなくなってしまうのである。幾世紀にもわたって彼のただ一つの楽しみであった欺瞞と破壊の行為が、全くできなくなるのである。」(各時代の争闘下巻 442)

個人的な復習問題

1. 贖罪の大いなる日には、告白された罪が聖所と民から、どのように取り除かれましたか。
2. どの行為の後に、年ごとの贖罪は完成しましたか。
3. 聖所と民から罪が取り除かれた後に、罪はどのように運び去られましたか。
4. アザゼルのための生きたやぎが、キリストを象徴し得ない理由を一つ挙げなさい。それは何を象徴していましたか。
5. キリストが再び来られるとき、このお方が救いの計画の最後の過程を完成なさるということ、どのように証明することができますか

神の家族の再一致

「その日、人は言う、『見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる。』」（イザヤ 25:9）

「キリストはご自分の民を神の都へ連れて行かれ、地には住民がいなくなる。」（各時代の大争闘下巻 440）

推奨文献： 教会への証 6巻 308-312

日曜日

12月18日

1. キリストの再臨

- a. 三つの出来事— (1) キリストに従う人々の間で本物の悔い改めと改心が見られる (2) 彼らの告白した罪が調査審判のときに除去される (3) 彼らが満ちみちた聖霊の注ぎにおいて「後の雨」を受ける—は、これらの最後の時代に起こります。第四の最も重要な出来事は何ですか（使徒行伝 3:19, 20; 詩篇 50:3）。

「王の王は、燃える炎に包まれて、雲に乗って降りて来られる。天は巻物が巻かれるように消えていき、地は、王の王の前に震え、すべての山と島とは、その場所から移されてしまう。」（各時代の大争闘下巻 420）

- b. そのとき、キリストにあつて死に、調査審判の間に是認された人々に、何が起こりますか（ヨハネ 5:28, 29（上句）；テサロニケ第一 4:13-16）。

「地がよろめき、いなずまがひらめき、雷がとどろく真ただ中で、神のみ子の声が、眠っている聖徒たちを呼び起こす。イエスは義人たちの墓をごらんになり、それから両手を天のほうへ上げて、『目ざめよ、目ざめよ、目ざめよ。ちりの中に眠る者たちよ、起きよ』と呼ばれる。地の全面にわたって、死者はその声を聞き、聞く者は生きる。」（同上 423）

2. 「正しい人々（義人）の復活の際には、あなたは報いられる」

- a. 父祖たちのためにとりおかれている報いについて、何と書かれていますか（ヘブル 11:13, 39, 40）。義人はいつ報われますか（ルカ 14:14）。多くの唇から何が聞かれますか。

「贖われた人々は、自分たちの注意を掲げられた救い主に向けてくれた人々を認める。これらの魂となんとという祝福された会話を交わすとか！次のように言うであろう、『わたしは罪人でした、神もなく、世において希望もありませんでした。しかし、あなたがわたしのところへ来て、わたしの注意を、わたしの唯一の希望として、尊い救い主へと引きつけてくれました。そしてわたしはこのお方を信じました。わたしは自分の罪を悔い改め、キリスト・イエスにおける天国でこのお方の聖徒たちと共に座するようにされたのです』。他の人が言うであろう、『わたしは異邦の地にいる異邦人でした。あなたは自分の友人や快適な家庭を後にして、いかにイエスを見出し、このお方を唯一の真の神として信じるかをわたしに教えに来てくれました。わたしは自分の偶像を砕き、神を礼拝しました。そして今、わたしはこのお方と顔と顔をあわせてお会いしています。わたしは救われました。わたしの愛するお方をいつも眺めているために、永遠に救われました。あのときは、このお方をただ信仰の目をもって眺めていましたが、今はこのお方のありのままのみ姿を仰いでいます。わたしは今、わたしを愛して下さい、ご自身の血によってわたしからわたしの罪を洗って下さったお方に、その贖いの憐れみに対して、感謝を述べることができます。』

他の人々は、飢えた者に食べさせ、裸の者に着せてくれた人々に、自分たちの感謝を表明する。」（教会への証 6 巻 311）

- b. キリストはアブラハム、イサク、ヤコブについて、何と言われましたか。彼らはいつ報われますか（ルカ 20:37, 38）。そして預言者ダニエルについてはどうですか（ダニエル 12:13）。ダビデ王についてはどうですか（使徒行伝 2:34, 35）。聖書の中に、すでに彼らが天にいるという証拠が何かありますか。

「ダビデが復活の時まで墓の中にとどまっているという事実は、義人は死んだ時に天に行くのではないということを証明している。復活を経ることによってはじめて、そしてキリストの復活の事実の功績によって、ダビデは、ついに神の右に座することができるのである。」（各時代の争闘下巻 297）

- c. 旧約聖書に、三つの例外的な例が述べられています（創世記 5:24（ヘブル 11:5）；ユダ 9（ローマ 5:14）；列王記下 2:11（マタイ 17:1-5））。説明しなさい。

3. 新しい体、新しい家

- a. キリストの復活のときに、よみがえらせられた聖徒たちは、どこにいますか(マタイ 27:52, 53; エペソ 4:8; 黙示録 4:4; 5:8, 9)。

「キリストは、よみがえられたとき、多くのとりこをよみからおつれになった。キリストがなくなれるときの地震で墓が口を開き、キリストがよみがえられると、彼らはキリストといっしょに出てきた。彼らは神と共に働いた者、生命を犠牲にして真理のためにあかしをたてた者たちであった。いま彼らは、彼らを死人の中からよみがえらせてくださったキリストの証人となるのであった。……

彼らは、死とよみに対するキリストの勝利を記念する者として、キリストと共に昇天した。この人たちはもはやサタンのとりこではない、わたしが彼らをあがなったのだとキリストは言われた。彼らがわたしのいるところに共にいて、決して死を見たり、悲しみを経験することがないように、わたしは彼らをわたしの力の初穂として、よみからつれ出したのだ。」(各時代の希望下巻 317)

- b. 使徒が天にはいないという証拠は何ですか。キリストは彼らのために、またわたしたちのために何を用意しておられますか(ヨハネ 14:1-3)。彼らは、わたしたちと共にいつ、約束の報いを受けますか(テモテ第二 4:7, 8)。
- c. 聖徒たちが持つことになる新しい体について、わたしたちは何を知っていますか(コリント第一 15:35, 38, 42-44; ピリピ 3:21)。

「わたしたちの個人的な特徴は、墓に下ったときと同じ物質の粒子でもなく材質でもないが、復活において保持される。神のすばらしいみわざは人間にとって神秘である。人の霊と品性は、神に返され、そこで保持される。復活において、すべての人は自分自身の品性を持っている。神はご自分のときに、死人を呼び出し、再び命の息を与え、そして渴いた骨に生きるようお命じになる。同じ姿で現れるが、病氣やすべての欠点はない。それはまた同じ個々の容姿を帯びているので、友人は友人を認める。自然には、神が死の前に体を構成していた物質と同じ粒子を再びお与えになることを示す神の法則はない。神は死んだ義人に、ご自分を喜ばせる体をお与えになるのである。」(主は来られる 301)

4. キリストは「執行審判」のために来られる

- a. キリストは「執行審判」のために来られます (ヨハネ 5:27; テモテ第二 4:1; ユダ 14, 15)。執行審判のときに二種類の人々は、どのようなさだめを与えられますか (マタイ 25:31-46; 13:41-43)。

「このようにキリストは、オリブ山で、大いなるさばきの日の光景を、弟子たちに描写された。しかもこの決定は、一つの点にかかっていると、主は言われた。国民が主の前に集められる時、そこには二つの階級しかないのであって、彼らの永遠の運命は、貧しい者や悩める者を通して主のためにつくしたか、それともつくすことを怠ったかによってきまるのである。」(各時代の希望下巻 107)

- b. 悪人は恐怖に満たされて、その大いなる日に何をしますか (イザヤ 2:19-21; 黙示録 6:15-17)。

「キリストがこられる時、悪人は、全地の表面から一掃される。すなわち、主イエスの口の息によって殺され、来臨の輝きによって滅ぼされる。キリストはご自分の民を神の都へ連れて行かれ、地には住民がいなくなる……『地は全くむなくされ、全くかすめられる。主がこの言葉を告げられたからである。』『これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ。それゆえ、のろいは地をのみつくし、そこに住む者はその罪に苦しみ、また地の民は焼かれ』 (イザヤ 24:3, 5, 6)。

全地は荒涼たる荒野のように見える。」(各時代の争闘下巻 440,441)

- c. 聖徒たちはどのように喜びますか—またどれほど近いうちにですか (イザヤ 25:9)。

「わたしが『主はまもなく来られる。準備しなさい、準備しなさい。あなたが待ち、見張り、このお方の来臨を愛しているところを見られるように』と言ったために、わたしはまた欺瞞者だと宣告された。しかし、黙示録の中にわたしはこの記述を読む、『見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう』『見よ、わたしは、すぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである』『わたしは、すぐに来る。あなたの冠がだれにも奪われないように、自分の持っているものを堅く守っていなさい』 (22:12, 7; 3:11)。この証を担ったお方は、この『すぐに』が、わたしたちの有限な思いでは予期できないほど長く延ばされたからといって、欺瞞者なのであろうか。語られるのは、忠実な真の証人であられる。このお方の言葉は、たしかであり、真理である。」(原稿 16 巻 179)

5. キリストの栄光、焼き尽くす火

- a. キリストの来臨のときに、生きた聖徒たちはどうなりますか（コリント第一 15:51-53）

「生きている義人たちは、『またたく間に、一瞬にして』変えられる（コリント第一 15:51）。彼らは、神のみ声によって栄化された。今や彼らは不死の者とされて、よみがえった聖徒たちとともに、空中において主に会うために引き上げられる。天使たちは、『天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集める。』（マタイ 24:31）。小さい子供たちは、天使たちに抱かれてきて、母親の腕に返される。長く死に別れていた友人たちは再会して、もう永久に別れることなく、喜びの歌をうたいながら、ともに神の都へと上っていく。」（各時代の大争闘下巻 424,425）

- b. 他の人々には何が起こりますか（イザヤ 66:15-18；テサロニケ第二 1:6-8；ペテロ第二 3:7, 10-12；ルカ 17:28-30）。彼らに救われる第二の機会があるという証拠が何かありますか。
- c. キリストの来臨の栄光が、なぜ悪人を滅ぼしても聖徒は滅ぼさないかを説明しなさい（ピリピ 3:18-21）。
- d. よみがえらせられた聖徒たちと生きた義人は、どこでキリストとお会いしますか（テサロニケ第一 4:17）。彼らの新しい家はどこですか（詩篇 15:1；ヘブル 12:22, 23；黙示録 21:2-4）。

個人的な復習問題

1. 使徒行伝 3:19, 20 に述べられた四つの出来事の正しい順番を述べなさい。
2. 父祖や預言者たちは自分たちの報いをいつ受けますか。彼らはまだ天国にいないということ、どの証拠が示していますか。
3. 聖書の中にある例外をあげなさい。
4. 復活のときに何が保持されていますか。また何は保持されていませんか。説明しなさい。
5. なぜキリストの来臨の栄光が、悪人は滅ぼしても聖徒を滅ぼさないかを説明しなさい。

千年期の間および後の聖徒たち

「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた。」(コリント第一 2:9)

「[新エルサレムでは]、不死の思いは、決して尽きることのない喜びをもって、創造の力の驚きと、贖いの愛の神秘を瞑想する。」(神の驚くべき恵み 368)

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 446-467

日曜日

12月25日

1. 天における贖われた者たち

- a. 聖徒たちがキリストと共に天へ連れて行かれるとき、彼らにどのような特権が与えられますか (黙示録 7:13-17)。

「幾百万という人々が、サタンの欺瞞的主張に服することを断固として拒んだために、汚名を着せられて墓にくだっていった。彼らは、人間の法廷において、最悪の犯罪人であると宣告された。しかし今、『神はみずから、さばきぬし……である』(詩篇 50:6)。今、地上の判決はくつがえされる。神は、『その民のはずかしめを……除かれる』(イザヤ書 25:8)。」(各時代の大争闘下巻 432)

- b. 贖われた者たちは「父の家」へ昇天した後、キリストにあずかる者として、どの働きに参加しますか (ヨハネ 14:1-3)。彼らはどれくらいの間、この働きに携わりますか (コリント第一 6:2, 3; 黙示録 20:4, 6, 12)。

「いのちの書には、聖徒たちの善行が記されている。死の書には悪人たちの悪い行いが記されている。これらの書が、律法の書、聖書と比べられ、それに従って人々は審かれる。聖徒たちはイエスと一致して、悪人たちに審判を下す。」(初代文集 121)

2. 悪人が裁かれなければならない

- a. 悪人はすでに自分自身の自由な選択によって運命を決定し、彼らは「さばきを受けるためによみがえり(ヨハネ 5:29)、千年期の後に「第二の死」(絶滅)を受けるにもかかわらず(黙示録 20:5, 9, 14)、なぜ裁かれなければならないのですか。

「〔千年期の終わりに〕キリストは、ご自分の民と一致して、死せる悪人を裁かれた。彼らは、悪人たちの行為を、法令の書すなわち聖書に照らしあわせて、その行ったわざにしたがって各々に判決をくださいました。それから彼らは、悪人たちがそのわざにしたがって受けねばならない運命を各々に割りあて、それを死の書の各目の名前のところに記入した。サタンと悪天使たちもまたイエスと聖徒たちによってさばかれた。サタンの刑罰は、彼が欺いた者たちの刑罰よりもはるかに重かった。サタンの苦しみは、比べものにならないほど彼らよりも大きかった。サタンは欺かれた人々がみな滅びてしまった後まで生き残って、長い間苦しみつづけるのである。」(初代文集 468)

- b. すべての悪人は火の池の中で滅びますが(黙示録 20:15)、刑罰には差があります(マタイ 11:22; ルカ 12:47, 48; 20:46, 47; ローマ 2:5, 6)。ですから、「罰」せられるために裁かれるという事実において、何が示唆されていますか(ペテロ第二 2:9,10)。

「天から〔サタンと彼に従う者たち〕の上に火がくだって、大いなる人、力ある人、高貴な人や卑賤な人の区別なく、すべての者が焼き尽くされる。ある者は、速やかに焼きつくされたが、長く苦しむ者もあるのを、わたしは見た。彼らは、それぞれの行為に従って罰せられた。ある者は焼きつきるのに何日間もかかった。まだ焼け尽きていない部分がある限り、苦痛感も残っているのであった。『生命の虫は死なない。わずかでも焼き尽くすものが残っているかぎり、火は消えない』と天使は言った。

サタンと彼の天使たちが最も長く苦しんだ。サタンは、彼自身の罪の重荷と罰だけでなく、贖われた人々の罪をも負わせられて苦しむのであった。彼は、また、自分が陥れた魂のためにも苦しまなければならない。こうして、サタンとすべての悪の軍勢が焼き尽くされ、神の正義が満足するのをわたしは見た。そして、すべての天使の軍勢とすべての贖われた聖徒たちは、大きな声で『アーメン』と言った。」(同上 473,474)

3. 裁きの目的

- a. なぜ裁きが必要なのですか。すべてをご存知であられる神は（ヘブル 4:13）、正しい判決をすべての人に宣告することがおできになりませんか。なぜ人間でさえ、裁きに参加しなければならないのですか。何が、忠実な天使たち、墮落していない諸世界、そして地から贖われた人々に明らかにされなければなりませんか。神が正しいことを完全に確信して、みなは何を宣言しますか（黙示録 15:3, 4; 16:7; 19:1, 2）。

「最後の審判の日に、失われた魂はみな自分が真理をこぼんだことがどういうことであったかをさとる。十字架が示されると、罪とがのために心がめくらになつていた者がみな十字架の真の意義をさとる。神秘的な犠牲者イエスのカルバリーの光景を前にして、罪人は有罪の宣告を受ける。あらゆるいつわりの口実は一掃される。人類の背信はその憎むべき性格のままにあらわされる。人々は自分たちの選択がどんなものであったかを知る。長年の争闘における真理と誤謬（ごびゅう）の問題がその時明らかにされる。宇宙のさばきにおいて、神には罪の存在や罪の継続にすこしも責任のないことがわかる。神の律法は罪の幫助（ほうじょ）ではないことが実際に示される。神の統治には欠点がなく、不満の原因はなかった。」（各時代の希望上巻 47）

- b. 罪に対する裁きは、どれほど広範囲ですか。また罪の扇動者はまもなく何を悟ることになりますか（ペテロ第二 2:4; ユダ 6）。

「サタンも悪天使たちもキリストとその民によって裁かれる。パウロは『あなたがたは知らないのか、わたしたちは御使をさえさばく者である』と述べている（コリント第一 6:3）。全地の裁き主がサタンに『なぜお前はわたしに反逆し、わたしからわたしの王国の臣民を奪ったのか』と問いただされるとき、悪の創始者は何の言い訳もできない。すべての口はやみ、反逆の全軍は言葉がなくなる。」（信仰によってわたしは生きる 216）

「[最終的な裁きにおいて法廷に召喚され]、サタンは、自分から進んで反逆したことによって、自分が天に適しない者になったことを知る。彼は神と戦うために自分の能力を訓練してきた。彼にとっては、天の純潔と平和と調和とはこの上ない苦痛となるであろう。神のあわれみと正義に対するサタンの非難は、今こそ沈黙させられた。彼が主に浴びせようと努めてきた非難は、全部彼自身に向けられる。そして今、サタンはひれふして、自分の上にくだった判決が正しいことを認める。」（各時代の争闘下巻 456）

4. すべての隠れた事柄が光に持ち出される

- a. 聖徒たちは、自分の親戚や友人の多くについて、なぜ彼らはいい人たちに見えたのに王国にいないのかと不思議に思い、疑問を抱くでしょう。ですから、彼らは自分自身で神の記録を調べ、疑問に思う各人の罪の升目を決定し、刑罰を決定する際に、もろ刃の剣（ヘブル 4:12）をもちいなければなりません（詩篇 149:4-9; イザヤ 54:17）。要約しなさい。
 - b. なぜ大変な罪人として知られていた多くの人々が王国にいるようになり、その一方で聖徒だと思われた人々が、火の池に投げ込まれるようになるのですか（コリント第一 6:9-11; マタイ 21:31 下句; 8:11, 12）。いつ、どこで隠されていた事柄が光の下にさらされますか（コリント第一 4:5）。
 - c. サタンとその使、またすべての悪人が灰になった後（エゼキエル 28:15-18; マラキ 4:1-3; 黙示録 19:19-21; 20:9）、新しくされた地にはだれが住みますか（ローマ 4:13（ガラテヤ 3:29 参照）; ローマ 8:16, 17; ダニエル 7:27; 詩篇 37:29）。
- 「もともと人にその王国として与えられたのに、サタンの手に売り渡され、長い間強力な敵に占領されてきた地が、大いなる贖いの計画によって再びもどされたのである。罪によって失われたいっさいのものは回復された。」（各時代の争闘下巻 462）
- d. 火によって地が清められた後、どのような状態が新世界に行き渡りますか（イザヤ 32:1, 17, 18; 65:17, 19, 21, 23; ペテロ第二 3:13）。

「〔新地では〕そこでは贖われた者たちは、『完全に知られているように、完全に知る』のである。神ご自身が魂にうえつけられた愛と同情とは、そこで最も真実な、最も美しいものとして発揮される。聖者たちとのきよい交わり、聖なる天使たち、及びその衣を小羊の血で洗って白くした各時代の忠実な者たちとの、むつまじい社会生活、『天と地の全家族』を一つに結びつける聖なるきずな—こうしたものが、贖われた者たちの幸福となる（エペソ 3:15 英語訳）。」（同上 465,466）

5. 価値のない者への愛

- a. 何の理由のために、神はわたしたちをむすこ娘として養子にし（ヨハネ 1:12, 13; ローマ 8:14）、王国の世継ぎとしてくださいましたか（ガラテヤ 4:7）。このようになされたのは、わたしたちがはじめにこのお方を愛したからですか、あるいはわたしたちがまだこのお方の敵であったときでさえ、わたしたちをはじめに愛して下さったからですか（コリント第一 2:9; ローマ 8:37; ヨハネ第一 4:9, 10, 19; ローマ 5:8-10）。
- b. 光と闇の間の争闘が永遠に終わり、すべての者がその良心において神は義なるお方であり、憐れみ深いお方であると納得したとき、すべての創造された知的存在者の口から何が聞かれますか（黙示録 5:11-13）。

大争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いっさいを創造されたお方だから、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる。」（各時代の争闘下巻 467）

個人的な復習問題

1. 天で贖われた人々に与えられることになっている特権を述べなさい。
2. 千年期の間、贖われた者たちの主な仕事は何ですか。なぜ悪人が裁かれなければならないのですか。
3. わたしたちの全知の神はすべてを御存知なので、このお方がすべての人の判決を宣告するだけで十分なのではないですか。なぜ人間でさえ、裁きに参加しなければならないのですか。
4. コリント第一 4:5 を説明しなさい。
5. 新地を描写しなさい。

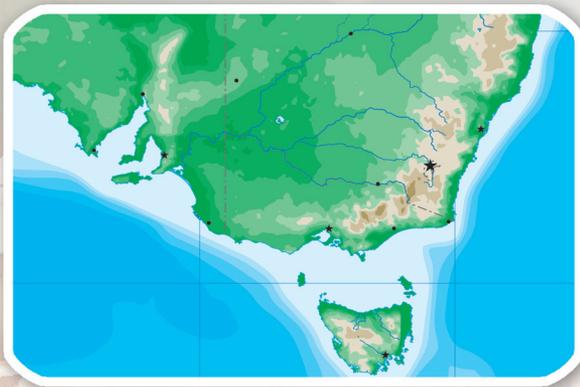
千年期の間、および その後の聖徒たち

神の民にとっては、サタンが捕えられることが嬉しさと歓喜をもたらす。預言者は次のように言っている。「主があなたの苦労と不安とを除き、またあなたが服した苦役を除いて、安息をお与えになるとき、あなたはこのあざげりの歌をとえ、バビロンの王〔ここではサタンを表わしている〕をののしって言う、「あの、しえたげる者は全く絶えてしまった。……主は悪い者のつえと、つかさびとの笏を折られた。彼らは憤りをもってもろもろの民を絶えず撃っては打ち、怒りをもってもろもろの国を治めても、そのしえたげをとどめる者がなかった」（イザヤ 14:3-6）。

第一と第二の復活の間の千年間に、悪人の審判が行なわれる。使徒パウロは、この審判を、再臨に続いて起こる事件として指し示す。「だから、主がこられるまでは、何事についても、先走りをしてさばいてはいけない。主は暗い中に隠れていることを明るみに出し、心の中で企てられていることを、あらわにされるであろう」（コリント第一 4:5）。ダニエルは、日の老いたる者がきて、「いと高き者の聖徒のために審判をおこなった」と言っている（ダニエル書 7:22）。この時義人は、王、また祭司として支配する。ヨハネは、黙示録の中で次のように言っている。「また見ていると、かず多くの座があり、その上に人々がすわっていた。そして、彼らにさばきの権が与えられていた。」「彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する」（黙示録 20:4,6）。パウロが、「聖徒は世をさばく」と予見したのは、この時のことを指しているのである（コリント第一 6:2）。彼らはキリストと共に悪人を審き、その行為を法規の書すなわち聖書と照らし合わせ、それぞれのなしたわざに従って、すべての者に判決を下す。その時、悪人は、それぞれのわざに応じて、受けねばならない苦しみが定められる。そして、それが、死の書の彼らの名のところに記録される。……

神の都には「夜は、もはやない。」休みの必要な者や、休みをほしいと思う者はだれもいない。神のみこころを行ない、そのみ名を賛美するのに、疲れることがない。いつも朝のすがすがしさを感じ、それは決して尽きることがない。「あかりも太陽の光も、いらぬ。主なる神が彼らを照」らされるからである（黙示録 22:5）。太陽の光線の代わりに、目にまぶしくない光が与えられるが、その明るさは今の真昼の輝きよりもはるかにまぎっている。神と小羊の栄光は、衰えることのない光をもって神の都に満ちあふれる。贖われた者たちは、太陽のない、しかもとこしえの昼の光の中を歩むのである。（各時代の争闘下巻 443,444,465）

第一安息日献金



10月1日

オーストラリアのメルボルンの
第二の教会のために
(4 ページ参照)

11月5日

貧しい国用の文書のために
(30 ページ参照)



12月3日

ブラジル、ブラジリアにある
ルネッサンス学校のために
(52 ページ参照)